



www.yokohamaymca.org/
AIDS/

2003（第10回）

AIDS文化フォーラムin横浜 報告書

2003年夏のフォーラムは、10年目を迎えた振り返りの年。
そしてこれからの10年を見つめる始まりの年。
脚本家・早坂暁氏によるドラマ作りや、
ミュージシャン・藤原美穂さんを迎えての閉会式など
新しい取り組みが数多くなされました。

■目次

| | |
|------------------|-----------|
| 2003年の特徴と | |
| オープニング企画 | p.2 |
| プログラム一覧 | p.4 |
| 参加団体報告(発表) | p.6-30 |
| 閉会式「この10年を振り返って」 | p.31 |
| 参加団体報告(展示) | p.32-35 |
| AIDS文化フォーラムの歩み | p.36 |
| フォーラムの考え方 | p.42 |
| フォーラムを支えた人たち | p.43 |
| 2004年予告 | p.44(裏表紙) |

■コラム

| | |
|-----------------|------|
| AIDS文化フォーラムの使い方 | |
| ・学校の先生たちのために | p.7 |
| ・保健師の皆様のために | p.9 |
| ・医療の最前線を知りたい方 | p.11 |
| ・感染者の方のために | p.13 |
| ・ボランティアしたい方 | p.15 |
| ・たまたま通りかかった方 | p.19 |
| ・フォーラムに参加したい団体 | p.21 |
| ボランティアからのメッセージ① | p.23 |
| 参加団体から一言 | p.25 |
| ボランティアからのメッセージ② | p.27 |

第10回を迎えた「AIDS文化フォーラムin横浜」が開催されました。

このフォーラムは、HIV/エイズに取り組む市民フォーラムとして日本で最大の催しです。HIV/エイズに対する社会的関心の薄れる中、8月の横浜は熱く盛り上がりました。

オープニングは、脚本家・早坂暁氏と俳優の烏丸せつ子氏による、会場参加型講演会「HIV/AIDSを作品にするとしたら」でスタートしました。



■開催概要

- ◇名称: 2003 AIDS文化フォーラムin横浜(第10回)
- ◇期間: 2003年8/1(金)～8/3(日)
- ◇テーマ
「AIDS—これまでの10年これからの10年」
- ◇場所: かながわ県民センター
- ◇主催: AIDS文化フォーラム組織委員会
- ◇共催: 神奈川県
- ◇後援: 横浜市、川崎市、横須賀市、相模原市
神奈川県教育委員会、横浜商工会議所エイズ問題対策懇談会、第7回アジア太平洋地域エイズ国

際会議組織委員会、エイズ予防財団

◇運営組織:

- 組織委員長(山根誠之)
- ・組織委員会(横浜商工会議所、横浜いのちの電話、横浜青年会議所、横浜YWCA、横浜YMCA)
- 運営委員長(岩室紳也)
- ・運営委員会(医師、保健師、教師、大学生、NPO代表者などのボランティアで構成、約15名)
- ・事務局(横浜YMCA 高橋亮 大江浩)



元気な「横浜のフォーラム」として、全国の皆さまから多くの期待を寄せられました。



■2003年フォーラムのご報告

1994年から始まった「AIDS文化フォーラムin横浜」(第10回)が、今年も無事開催されましたことを、感謝とともにご報告いたします。

HIV/AIDSに対する関心が薄れている中で、元気な「横浜のフォーラム」として、全国の皆さまから多くの期待を寄せられました。

◇参加データ:

参加プログラム数 74 過去3番目に多いプログラム数でした。

参加者数 4,624名 過去10年で3番目に多い人数でした。一番多かったのは、98年「TV神様もう一度だけ」(深田恭子主演)などが放映され社会的関心が最も集まった年。

◇オープニング光る!

HIV/エイズに関心を持たなかった多くの層に来てほしいと願い、エイズドラマを企画中の脚本家・早坂暁氏をお呼びすることができました。ドラマの中でHIV感染する娘の母親役を演ずる予定の烏丸せつ子さんにも来ていただきました。会場の参加者とともにドラマのストーリーを考える形式は好評でした。

◇若者向けプログラムの強化

若者の性に関する意識が変化してきています。フォーラムでは、参加団体にも呼びかけ若者向けのプログラムを増やす努力を行いました。若者の覚醒剤問題に体を張って取り組む水谷修さんの「さらば悲しみの青春」は単体プログラムとしては過去最高の参加者が集まり、関心の高さがみられました。

◇基礎講座の強化

昨年、休憩時間に開催して好評だった基礎講座をプログラムとして確立しました。どの講座も満員の状態でした。

◇国際分野の常連化

昨年、積極的に国際NGO団体に参加を呼び掛け、多くの国際NGO・NPOに参加していただきましたが、いくつかの団体が引き続き今年も参加され、常連の仲間入りをしていただきました。国際協力はど

んな活動分野であれHIV/AIDSの問題を避けて通れない状況を示しています。

◇教育関係がさらに伸びる

例年以上に教育関係者の来場が目立ちました。特に中学校の先生が多かったように思われます。また中学の先生が生徒をボランティアとして引率してくるようになりました。

◇神戸会議は延期に...

昨年から2003年11月に神戸で行なわれる予定だった第7回アジア太平洋地域エイズ国際会議を応援してきましたが、SARSの影響で2005年への延期が決まりました。国際会議組織委員会から経緯の説明などが行われ、2005年に向けて引き続き応援していくことが確認されました。

◇全国からの来場者増

AIDS/HIV関連の市民型フォーラムとして大きな期待をよせられる存在となってきたことを感じる年でした。運営委員は身の引き締まる思いを感じています。

◇10年の振り返りと未来にむけて

フォーラムの10年を振り返る展示を作成しました。閉会式では、かつて事務局長を務めた長沢氏から「文化」をつけた由来などを語っていただき、元実行委員長長の広瀬医師からも激励の言葉をいただきました。また10年前ラジオのDJとしてAIDS関連の特集を組んでフォーラムを応援してくれた歌手・藤原美穂さんには歌でお祝いをしていただきました。

オープニングプログラム

「HIV/AIDSを作品にするとしたら」

ゲスト: 早坂暁(脚本家) 烏丸せつ子(俳優)
木城香代(アナウンサー)

■今年のねらい

関心がない人に、足を運んでもらいたい。もちろん、関心がある人にも参加してほしい。両者に満足して頂くためには？文化の香りもただよってほしい。それが、毎年オープニングを企画する時のねらい。しかも、今年は第10回、この10年の歩みも盛り込みたい。欲張りな悩みを抱える運営委員会は、脚本家の早坂氏がAIDSをテーマにしたドラマを書く計画があるという情報をキャッチ。「夢千代日記」や「必殺仕事人」の脚本とAIDSはどう結びつくのか。これは、両者にとってもドキドキワクワクに違いない。今までの、AIDSについて医学の専門家、活動の実績がある人というこだわりを捨て、最初は誰でも「素人」、運営委員も第1回の頃を思いだして初心にかえって取り組む。テレビの力は大きい。だからこそ、早坂氏には、AIDSについて良きものを創ってもらいたい。そんな願いをAIDSに取り組んできた参加者と皆で届けるフォーラムにしたい。

フォーラムから、テレビドラマが生まれる！？

■親しみやすさと参加者一体をねらってステージは、使用せず。まず司会者が、木城氏を紹介。木城氏から早坂氏を紹介。早坂氏から烏丸氏を紹介。順々にゲストを紹介したのは、そのつながりが同時に企画の意図をつたえる仕掛け。満席の会場に登場した、烏丸さんは、カジュアルな装いにナチュラルメイク。はっとそこに惹きつけられる華があり、会場の視線が集中した。前半は、AIDSをテーマに選んだ理由についての、早坂氏の語り。本職のアナウンサーに負けないぐらいの滑らかさで、そのまま独演会でもよいかと思うほど。四国のお遍路さんから始まり、「病」についての一考は、深く沁みこんだ。後半は、オーバーヘッドプロジェクターをつかって提示された脚本サンプルを会場参加者と検討。会場内に白衣を着て出番を待っていた岩室紳也医師によるコメントは



ドラマの医事監修そのもの。エイズ基礎講座・感染した立場からのメッセージの講師でもある北山翔子氏の発言に烏丸氏が熱心に聞き入り、質問する様子は、俳優として勉強熱心なところと母としての実生活の一面をのぞかせていた。会場からは、様々なアイデアが飛び出し、盛り上がった。

■来場者の感想

「新しいタイプのプログラムでおもしろかったです」「(AIDSに対して)深い知識がなくてもわかりやすかった」「様々な方面からの話を聞いて良かった」「ドラマが楽しみです。きっといいねいに作ってくれることでしょう」「作品には日本と世界の最新エイズ情報を入れて欲しい」「学校場面が設定されるのなら、保健室、養護教諭の話を取材してほしい」「若者の中に漂う奇妙な空気感を出して欲しい」「微(ほのか、ドラマ主人公の名)ちゃんが妊娠している設定はどうでしょうか」等アンケート内でもドラマに対する要望多数

■後日談

このイベントを機に各地で早坂氏招聘の企画があるとのこと。新しいつながりを予感。

■謝辞

早坂氏、烏丸氏には、オープニングイベントに参加していただいただけでなく、ネットワーキングパーティーでの景品用色紙用サイン、閉会式で使用したビデオにも登場して頂いた。

テレビの力は大きい。だからこそ、早坂氏には、AIDSについて良きものを創ってもらいたい。…フォーラムから、テレビドラマが生まれる！？



「2003 AIDS文化フォーラム in 横浜」プログラム

*プログラムによっては、プログラム内容をより深く理解していただくため、対象者を限定するものがあります。

2003年7月17日現在の状況です。(都合によりプログラム内容、日時、教室等が変更になることがあります。最新の情報はホームページをご覧ください。)

| | 部屋 | 10:00~12:00 | 13:00~15:00 | 16:00~18:00 |
|---------------------------------------|---|--|---|---|
| 8/11 (金) | ホール | ◇ 開会式 ◇ 早坂暁が語るエイズ | さらば、悲しみの青春 (水谷 修) | |
| | 301 (90) | 「HIV/AIDSを作品にするとしたら」 脚本家 早坂暁 女優 烏丸せつ子 | エイズ検疫受審「援助文脈とSTD (性感染症)」 (性を語る会) | ますます Positive !!!!! (バトリック&紳也) |
| | 303 (30) | | タイを中心とした諸外国の取り組みと日本の援助の重要性 (安田直史:国立国際医療センター 国際協力局) | こんな教材でエイズを学びましょう (性教協かながわサークル) |
| | 304 (60) |   | 一緒に経おう、ベビーキルト (ABC キルト横浜) | 自分とエイズの関係性~世界はつながっている~ (子どもの権利条約ネットワーク) |
| | 403 (60) | | 子どもたちからのメッセージ今私達に (サークルホン&川口子どもネットワーク) | 途上国における治療リテラシーのプロジェクト (アフリカ日本協議会) |
| 8/2 (土) | ホール | 琉球太鼓 12:00~12:30 (横浜ダルクケアセンター) | SARS エイズの教訓は生かされているのか (アジア・太平洋地域エイズ 国際会議組織委員会) | SARS エイズの教訓は生かされているのか (アジア・太平洋地域エイズ 国際会議組織委員会) |
| | 301 (90) | エイズ治療最新事情 (立川夏夫:国立国際医療センター) | 映像を使ったアジアの実態 横浜賀市民病院産婦人科医長 今井一夫 (AIDS ネットワーク横浜) | 医薬品のアクセス (町境なき医師団) |
| | 303 (30) | | QQ*つけちゃおう女の子も!男の子も! (QQ*) | |
| | 304 (60) | エイズ基礎講座 コンドームをどう教えるか (地域医療振興協会 岩室紳也) | 体験してみよう「タイの農村での参加型エイズ教育」 (特定非営利活動法人シェア=国際保健協力市民の会) | 薬害エイズを語り続けて (薬害エイズを考える山の手会) |
| | 305 (60) | 学校や地域で役立つ則読ワークショップ (H.I.Voice ACT) | エイズ基礎講座 感染した立場からのメッセージ (北川翔子) | H.I.Voice 座談会~10年を振り返って~ (H.I.Voice 編集局) |
| | 306 (30) | | PLWHA による PLWHA 支援活動治療と生活の アウトライン構築のために (JaNP+) (PHA 限定) | セックスワークをめぐる今日の課題 (SWASH) |
| | 403 (60) | 考えよう! 保体所をうまく使う「エイズ対策」 (PNY びにい) | 性と生を大切にできる性教育をしよう! (PNY びにい) | エイズ基礎講座 中学生のためのエイズ授業 「AIDSってどんな病気なの」 (県立弥栄東高校教諭 安藤晴敏) |
| | 404 (30) | | ちょっと考えてみよう! 携帯電話と子どもの人権 (ECPAT/ストップ子ども買春の会) | サークルホンラストソング (サークルホン) |
| 405 (30) | W.YOKOのHow to Make AIDS WORKSHOP? Part3 (エイズを伝えるネットワーク TENCAL) | W.YOKOのHow to Make AIDS WORKSHOP? Part3 (エイズを伝えるネットワーク TENCAL) | W.YOKOのHow to Make AIDS WORKSHOP? Part3 (エイズを伝えるネットワーク TENCAL) | |
| ネットワークキングパーティー: 8月2日(土) 18:00~ 301会議室 | | | | |
| 8/3 (日) | ホール | | トリートメント・アドボカシー ~PLWHAによる治療支援活動・理念と実践~ (JaNP+) | ホール ◇開会式 テーマ 「この10年を振り返って」 |
| | 301 (90) | エイズ基礎講座 高校生のためのエイズ授業 「AIDSってどんな病気なの」 (県立弥栄東高校教諭 安藤晴敏) | 警視庁さん、まだAIDSを差別するのですか(最終章) (HIV 不当解雇訴訟を考える会) | 特別ゲスト ミュージシャン 藤原美穂 「第10回国際エイズ会議(横浜)前後にラジオのDJとして AIDS 関連の番組を多く手がける」 ◇ 第7回アジア太平洋地域 エイズ 国際会議の皆様 ◇ フォーラムを支えてくれた皆様 |
| | 302 (30) | 「エイズの危機にさらされる子どもたち」森田明彦・ユニセフ協会(ふれきしぶる) | 若者の声を神戸から世界に送信→ ~世界へ広がるユースの輪 (YAHAT [ユース・フォーラム in 神戸]) |  |
| | 303 (30) | 心と心をつなぐ「腹話術~教育プログラム~ (JOINT HEART) | エイズ基礎講座 予防に必要な基礎知識の啓発 (長谷川病院 吉永陽子) | |
| | 304 (60) | 10代女性をとりまく性情報について (CAI&岩室紳也) | 危機下にある子ども達~バンコクYMCAの取り組み (タイ・バンコクYMCA・横浜YMCA) | |
| | 305 (60) | 医学生・医療学生による性教育 PROJECT (IFMSA(国際医学生連盟) -性と生殖に関する委員会-) | アフリカの村人と取組むエイズ紙芝居 (ジョイセフ・家族計画 国際協会財団) | |
| | 306 (30) | 息子からの贈り物 (H.I.Voice ACT) | 大高アノニマス (大人こそ性を悩もう! ネットワーク) | |
| | 403 (60) | HIV 感染者の食生活と 衛衛生管理 (HIV と人権・情報センター・大阪) | セクシュアリティ入門2003 (LAP) | |
| | 404 (30) | 感染者と語り合おう AIDS の(最近の)こと (ぼーとたまがわ) | 「性」教育は「生」教育 (HANA~Happy Aim New Action~) | |
| | 405 (30) | Web 上で上手にコミュニケーション (Positive 生活情報館) | | |

■展示プログラム出展団体

PLWHA・PHA=People living with HIV/AIDS

- ◇CAI ◇LAP ◇アジアの女性と子どもネットワーク ◇ジョイセフ・家族計画|国際協会財団 ◇横浜 AIDS 市民活動センター
◇横浜 YMCA ◇横浜エイズ勉強会 ◇エイズ予防財団 ◇神奈川県衛生部保健予防課 ◇ATAC in NARA ◇フォスタープラン
◇町境なき医師団 ◇性を語る会 ◇ボディショップ ◇HIV と人権・情報センター ◇AIDS&Society 研究会議 ◇オカモト ◇ふれきしぶる

プログラム ナビ!!

多くの方々に参加していただけるよう、プログラムを
カテゴリーで分けてみました。

(重なり合う領域もありますのでご参考です)

■教育関係者のヒントに...

- ・性と生を大切に出来る性教育をしよう! (PNY)
- ・考えよう! 保健所をうまく使う“エイズ教育” (PNY)
- ・こんな教材でエイズを学びましょう。(性教協かながわサークル)
- ・ちょっと考えてみよう! 携帯電話と子どもの人権 (ECPAT)
- ・「性」教育は「生」教育 (HANA~Happy Aim New Action~)
- ・エイズ模擬授業「援助交際とSTD」(性を語る会)
- ・HIV/AIDS基礎講座・コンドームをどう教えるか(岩室紳也)
- ・学校や地域で役立つ朗読ワークショップ (H.I.Voice ACT)



■検査・治療の最前線...

- ・映像を使ったクラミジアの実態
(AIDS ネットワーク横浜)
- ・エイズ治療最新事情
(立川夏夫: 国立国際医療センター)
- ・医学生&医療学生による性教育のプロジェクトの紹介
(IFMSA-Japan 性と生殖に関する委員会)

■セクシュアリティは重要なテーマです...

- ・セクシュアリティ入門2003

■社会問題を考える...

- ・薬害エイズを語り続けて(薬害エイズを考える山の手の会)
- ・警視庁さん、まだAIDSを差別するのですか(最終章)(HIV不当解雇訴訟を考える会)

- ・セックスワークをめぐる今日的課題
(SWASH)



■若者に参加してほしい...

- ・さらば、悲しみの青春(水谷修)
- ・つけちゃおう女の子も! 男の子も(QQ*)
- ・10代女性をとりまく性情報について(CAI)
- ・若者の声を神戸から世界に発信
→世界へ広がるユースの輪(YAHAT)
- ・エイズ基礎講座 中学生のためのエイズ授業
- ・エイズ基礎講座 高校生のためのエイズ授業
(県立弥栄東高校教諭 安藤晴敏)
- ・子どもたちからのメッセージ 今私達に(サークルホン&川口こどもネットワーク)
- ・自分とエイズの関係性~世界はつながっている~
(子どもの権利条約ネットワーク)



■文化、体験、パフォーマンス、その他

- ・一緒に縫おうベビーキルト (ABCキルト横浜)
- ・琉球太鼓 (横浜ダルクケアセンター)
- ・心と心をつなぐ腹話術 (JOINT HEART)
- ・大脳アノニマス (大人こそ性を悩もう! ネットワーク)
- ・How to make AIDS WORKSHOP (TENCAI)

■国際NGO、NPOの重要課題...

- ・体験してみよう「タイの農村での参加型エイズ教育(シェア)
- ・アフリカの村人と取組みエイズ紙芝居(ジョイセフ)
- ・SARS エイズの教訓は生かされているのか
(第7回アジア・太平洋地域エイズ国際会議組織委員会)
- ・講演会「エイズの危機にさらされる子どもたち」
ユニセフ協会・森田明彦(ふれきしぶる)
- ・途上国における治療リテラシーのプロジェクト(アフリカ日本協議会)
- ・医薬品のアクセス(国境なき医師団)
- ・タイを中心とした諸外国の取り組みと... (安田直史)
- ・危機下にある子ども達~バンコクYMCAの取り組み

オープニング 特別講演

「HIV/AIDSを作品にするとしたら(仮題)」

「夢千代日記」、「きけ わだつみの声」など社会派の脚本家として知られる早坂さんが、AIDSを題材に作品を考えていらっしゃるという情報をキャッチ。早坂さん提案のストーリーサンプルに、感染者の方や会場の皆様からの意見でドラマを作ります。即興で女優の烏丸せつ子さんが演じてくださる、参加型講演会を行います。

■HIV/エイズと共に生きる...

- ・感染者と語り合おうAIDSの(最近のこと)
(ぼーとたまがわ)
- ・サークルホンラストソング(サークルホン)
- ・ますますPositive!!! (パトリック&紳也)
- ・Web上で上手にコミュニケーション
(Positive生活情報館)
- ・トリートメント・アドボカシー
~PLWHAによる治療支援活動・理念と実践~ (JaNp+)
- ・HIV感染者の食生活と口腔衛生管理
(HIVと人権・情報センター)
- ・PLWHAによるPLWHA支援活動治療と生活のアウトライ
ン構築のために (JaNp+) (PHA限定)
- ・HIV/AIDS基礎講座・感染した立場からのメッセージ
(北山翔子)
- ・H.I.Voice座談会・10年を振り返って (H.I.Voice編集局)
- ・息子からの贈り物 (H.I.Voice ACT)



会場の参加者から父親、母親役を募って出演してもらったが、援交娘たちを説得する言葉は遂に発することができなかった。

■参加団体報告&メッセージ

さらば悲しみの青春

■主催:横浜市立戸塚高等学校定時制
教諭 水谷 修

■内容:私は若者たちから「夜回り」と呼ばれる深夜のパトロールを通して、若者たちの薬物乱用防止・非行防止に取り組んでいます。

毎日のように新聞紙上にでる様々な少年犯罪の数を見てもわかるとおり、日本は、今「第四次少年犯罪多発期」を迎えています。前刑法犯の半数近くが少年という異常な事態です。今回の発表では、この少年犯罪多発期の特徴をきちんと捉えることを通して、その背景となっている私たちの社会や大人たちの在り方を考えてみました。子どもたちは、決して生まれながらに非行・犯罪に手を染めるように作られているわけではありません。本来、美しい花を人生で咲かせるはずだった子どもたちを、何が犯罪や非行の道、すなわち哀しみの人生へと追い込んでいったのか、

私に関わった多くの哀しい子どもたちの実例を通して、会場のみなさんと考えました。そして、今私たちの社会が、私たち自身が、子どもたちを守るために何をすべきなのかを一つのメッセージとして発しました。

■連絡先:〒233-0006

横浜市港南区芹が谷2-14-14

電話・FAX045-822-2879

E-mail om@yhb.att.ne.jp

ホームページ

<http://koubunken.co.jp/mizutani/main.html>

エイズ模擬授業「援助交際とSTD(性感染症)

■主催:性を語る会
代表・北沢杏子

国内外に会員2,100名。1987年創立。性・薬物・エイズ・環境教育シンポ開催。年間受講生3,000人。機関誌(季刊)発行。年会費2,000円。

■内容:毎回新しい企画を考え教材も作成して、北沢杏子による模擬授業を行っている。会場はいつも満席。昨年からは劇団DAIKON座(座員4名)の劇を上演。今回は『援助交際』の心理と処罰新法がテーマ(北沢杏子脚本/演出)。女子高生2人にインタビューアーがインタビュー。2人はHIVの検査は受けているものの、クラミジア・ヘルペスに感染しており、「薬を飲んだらなおっちゃったから平気。彼氏にうつしたくないもんね。」「援助したお金で5万円もするプレゼントを彼氏にしたよ」などと答え、会場の人々を嘔然とさせた。

とはいうものの本音は、「親に叱ってもら

いたい」「怖いこともあると心配してもらいたい」「それをきっかけに援交商売やめたい」とのこと。そこで会場の参加者から父親、母親役を募って出演してもらったが、援交娘たちを説得する言葉は遂に発することができなかった。

親子関係の希薄さ、家族、家庭の無力さが露呈され、会場は一瞬シーン!

来年もこの形式で社会問題としてのHIV/AIDS、STDを提供していきたい。

■連絡先:アーニ出版「性を語る会」

〒158-0097

東京都世田谷区用賀3-5-6

TEL:03-3708-7326

E-mail: shima@ahni.co.jp

感染者と語り合おうAIDSの最近のこと

■主催:ぼーとたまがわ

■内容:今年のテーマは「感染者と語り合おうAIDS(最近のこと)」でした。私達「ぼーとたまがわ」は、感染者の直接支援を行っておりますので、毎年このAIDS文化フォーラムでは、感染者が抱えるいろいろな問題点を伝える事を目標にしております。その手段として参加者の方々と感染者の方々が気軽に語り合えるスタイルを行っております。

今年度のフォーラムでは、2つのテーマを基に行いました。まず1つ目の上記のテーマで話し合われた内容を大まかにまとめ報告を致します。

1. 投薬数が減る(全ての人ではないが薬の進歩により投薬数が減り、生活上の制限や副作用が和らいだ)
2. 薬の種類の変更(耐性ウィルスの出現により薬のチェンジが行われた)
3. 仕事を持つ傾向(体力的に問題を抱えつつ、多くの方が仕事に就いたり、就職への努力を行っている)
4. 余暇への関心(スポーツや趣味への関心が高まっている。薬の効果で気持ち

の余裕も生まれる)

5. 変わらない差別(差別に関しては、10年前と変わっていないのではないか?)

2つ目のテーマは、最近の傾向として「若年層の感染率の上昇が止まらない」を危惧し独自のアンケートでもって何が問題になっているか? を2年位かけて調べようとしているその第一弾として、当日までに集めたアンケートの結果について参加者の方々と話し合いました。(このアンケートは解答が大事、と言うのではなく、その問いを読んでいるうちに内容が頭に入り、勉強が出来る、というスタイルのものなのである)

詳しくは …毎週木曜日

「こころのホットライン」

18時～22時 へご連絡ください。



変わらない差別(差別に関しては、10年前と変わっていないのではないか?)

AIDS文化フォーラムの使い方

学校の先生たちのために

私がAIDS文化フォーラムに出会ったのは9年前、「HIV感染者の気持ち・思いが伝わる授業がしたい＝感染者に出会いたい」と願った結果、たどり着いた。中学生の心を揺さぶる熱いメッセージが発信できる教員になりたいと思っている。フォーラムに来れば一受講者として、ボランティアの一員として生きた研修を重ねることができる。閉鎖的で学校関係者の中で埋没しそうな私たちに新しい出会いがあり、広がりがある。スローガンではなく、感染者(その家族)とともに……が現実のものとなる。ここ数年は、中学の生徒達にボランティア体験をしてもらっている。中学生の吸収力はすばらしく、自らの体験を発信する力も十分に持っている。今年度、富士見中学の保健委員は、文化祭でHIVと人権・情報センターと協働し、教育文化会館のステージで発表を行った。

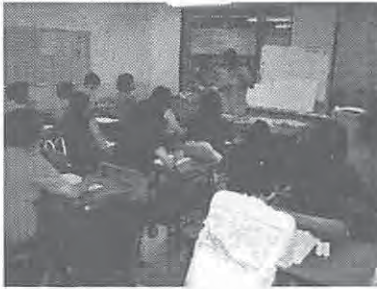
よく言われているように「性教育は生教育」であり、人間尊重教育だと思う。教科や専門性にとらわれることなく、どんな教師でも一人の人間として「性＝生」を語ってほしいと思う。私は自分の(心の)中を通ったものを生徒に提供し続けたいと思っている。

AIDS文化フォーラム、こんなに異業種の人と一緒に介する場は他にないと思う。こんなにすばらしいチャンスは他にないと思う。教師のみなさん、自分のため＝生徒のためにフォーラムを利用しましょう。

<川崎市立富士見中学校 教諭 山口ちづこ>

■参加団体報告&メッセージ

エイズ基礎講座・感染した立場からのメッセージ



当事者が事実をそのまま語ることでHIV・AIDSが、誰にとってもそれほど遠くないものだと感じてもらえたら…

■主催:2003AIDS文化フォーラムin横浜運営委員会

■講師:北山翔子

■内容:HIV感染者がどのようにして感染し、どのように暮らしているのか。みんなわかっているようで、本当のことを知らない人が多い。当事者が事実をそのまま語ることでHIV・AIDSが、誰にとってもそれほど遠くないものだと感じてもらえたら…というのがねらい。

■来場者感想:

北山さんの話を聞いて、とても勇気づけられました。私も保健師・看護師になります。人を癒しパワーを伝えられるような人になりたいです(20代女性)。AIDSとは意外に身近であるのだと思いました。「私には関係ない」では通せないのだと思いました。AIDSの知識があっても、やはり知識があるだけであつたと反省しています。抗体検査を受け、正しい方法で感染防止をしていきたい(30代女性)。両親のお話や、恋愛のことなど、なかなか聞くことのできないことについて聞くことができ

て、大変よかったです。途中で泣きそうになりました。サルサがんばってください(10代女性)。普通なんだって思いました。辛いことを乗り越えていくと、気がつくことが多く、人生が豊かになりますね(30代・男性)。淡々とした語りの中に、胸にジーンとくるものがありました。自分の中に、差別する気持ち、感染症を否定する気持ちがあると思います。こういった気持ちが、今日のお話でジュッと火が消えるように小さくなった気がしました。でも、日常に戻るとまたこの火が大きくなると思うので、これからも関心をもって生きたいと思いました。すごくいい時間でした(30代・女性)。

■連絡先:E-mail:shiniwamuro@nifty.ne.jp 岩室紳也(北山さんの講演依頼はメールのみで受付)

H. I. Voice座談会 -10年を振り返って-



■主催:H.I.Voice編集局

感染者と未感染者が互いに理解を深めるための声のフォーラムとして、1993年から10年間発行を続けてきました。

■内容:H.I.Voice編集局では、11年目を迎えるにあたって、これまでの活動の総括と、今後の展望について、読者も加えて話し合いの時間を持ちました。エイズに関する医療や社会状況は、この10年で大きく変化しましたが、一方で、新しい患者・感染者が増え続けている事実もあり、投稿による通信誌の果たしてきたこれまでの役割と、今後の可能性についての意見交換を企画しました。しかし、当日は参加者が少なかったため、編集

局メンバー中心に、10年の活動記録を板書しながら、これまでを振り返ることとしました。そして、今後の展望については、時間不足で十分な議論にまでいきませんでした。しかし、数種類のリラグゼーションを体験しながら、普段は各地に離れている編集局メンバー間の交流を深めることができました。

■連絡先:〒198-0046 青梅市日向和田3-663-5 hivoice@clubaa.com

大脳アノニマス

■主催:大人こそ性を悩もう! ネットワーク

大人として自らの性の悩みを受け止め、悩み/不安を抱く年代の子どもたちに伝え、シェアすることで思春期の性/日常と性について取り組もうとしている。

■内容 :以下の趣旨に基づいたワーク(秘匿性のミーティング)を実施した。

・“大人こそ性を悩む”ことの必要性を新たに認識する。

・自分たちの“性”にまつわる想い/感情をシェアする。

・教育現場での活動(思春期にさしかかる子どもたちとの交流)への足がかり導入から簡略順記する。このワークを選択し、来た自分の意識を再確認。ワーク開催に至る経緯の説明を兼ね主催者4名と参加者のフリートーク。フリートークの中からトピックを拾い出し、エンカウンタ・グループでの自分を語るミーティングを実施(40分)。各グループの話しを全体でシェアして終了。

自分を語る(Iメッセージで伝える)ことの意義を説明していなかったため、情報交換と身の上話が入り混じり、焦点の定まらない状態になってしまった。ファシリテーター自身が主催仲間を本名で呼んでしまうという過失もあり、自助グループとしてのミーティングを期待した人には心地悪さが残ったのではないだろうか。情報交換したかった人には、秘匿性が障害となったことだろう。不徹底であった半面、全体の雰囲気は穏やかで心地よい時間であったように思われる。

■連絡先:nayamo-adults@freeml.com



大人として自らの性の悩みを受け止め、悩み/不安を抱く年代の子どもたちに伝え、シェアする

AIDS文化フォーラムの使い方

保健師の皆様のために

保健師の皆様。

プログラムは最新・多岐に渡っています。自分の目的に応じたプログラムのハシゴ計画を立てましょう。

そこでは、検査・治療の最新知識、教育のヒント・媒体・資料のゲット、ワークショップ参加で自分自身のスキルアップが図れます。勇気を出してプログラムの主催者に声をかければ、研修の講師が見つかるかも。

展示会場は穴場です。貴重な資料が手に入り、そのブースの方と個別に話もできます。

このフォーラムの特徴は、当事者の方が参加していること。セクシュアリティやHIV感染者について当事者の方の声を直接聞き、意見交換ができます。日頃の自分の

言動や事業の振り返りのよい機会になります。

一番のお勧めは、日頃これほど思っている人と一緒に参加することです。ぜひ、仲間に引きずり込みましょう。自分自身が働きやすい職場環境が作れます。これは、ネットワークづくりにも応用できます。

〈保健師 金井多恵〉

■参加団体報告&メッセージ

セクシュアリティ入門2003



自分の性がどれなのか、パートナーはどうなのかという疑問にぶつかりました。

■主催:ライフ・エイズ・プロジェクト (LAP)

HIV感染者・エイズ患者への社会的支援活動を行なう非営利団体(NGO/NPO)として1993年設立。

■内容:「セクシュアリティ入門2003」

講師 木谷麦子

LAPニュースレターで「知ったつもりでいるあなたのためのセクシュアリティ入門」を好評連載中の木谷麦子氏を講師に迎え、セクシュアリティについてなるべく分かりやすく解説し、後半は質疑応答をおこなった。

性愛を感じる対象の性別による分類であるセクシュアル・オリエンテーション(性的指向)をはじめ、性に関する自認全般に用いられるとともに、とくに「性別自認」について使われるセクシュアル・アイデンティティ(性的自認)、身体的性別と自認の性別が一致していない性同一性障害(セクシュアル・アイデンティティ・ディスオーダー)

について木谷氏が自身の言葉で、ていねいにかみ砕きながら解説していった。

来場者からは「自分の性がどれなのか、パートナーはどうなのかという疑問にぶつ

かりました。今までは女として生きてきたつもりだったのですが、これからはどうなのかなって思います」(20代・保健医療関係)、「頭の中をもう一度整理する助けになりました」(30代・保健医療関係)、「性同一性障害がとて多くとりあげられるように

なって良く聞く話だけれど、わかっているようなわかっていないような…という感じだったので勉強になりました」(20代・学生)、「人知れず悩んでいる生徒のことを理解し、支援していきたい」(40代・教育関係)、「初めて聞く性同一性障害の詳しい分かりやすい話でした」(40代・教育関係)等の感想が寄せられた。

■連絡先:住所 〒100-8691 東京中央郵便局私書箱490号電話03-5685-9716 FAX03-5685-9703

E-mail lap@lap.jp
ホームページ <http://www.lap.jp/>
代表 清水茂徳

つけちゃおう女の子も！男の子も！

■主催:QQ*

QQ*は若い人達を対象に「自分の心と体を大切にしよう」と思う気持ちを育てようという活動を始めました。

■内容: QQ*の初活動としてコンドームの使い方を「バリア」という観点から考えて行きました。参加者と輪になって座り、質問を受けながら、AIDSや性感染症の予防、そして避妊に対するコンドームの効用について話しました。セクシュアリティ、コンドームをつける時の主導権、AIDS検査などのトピックスを含めて参加者にも考えてもらいながら話し合いが進みました。色々なバリアー男性用コンドーム各種以外にも女性用のコンドームやデンタルダムを紹介しました。出来るだけ実用的にと

素材に対するアレルギーや、素材とジェル成分との相性に関しても触れました。そして実際コンドームを着ける経験も参加者にしてもらいました。「着け方が解ってよかった」という感想をいただいたのは嬉しいです。セックスの前の「コンドームつけよう」交渉をロールプレイする予定でしたが、そこまでには至らなかったのが残念です。皆にリラックスして楽しく話し合える雰囲気作りをこれからの課題とします。

■連絡先:

<http://www.qqsite.org/>
qq_contact@yahoo.co.jp 今後の連絡先:
qq_red@yahoo.co.jp

自分とエイズの関係性 ～世界はつながっている～

■主催:子どもの権利条約ネットワーク
「子どもと大人は未来を創るパートナー」と考え、子どもの自由な意見表明・社会参加実現を目指し、子どもの権利条約実施・普及活動をする。

■内容:子どもの商業的性的搾取はエイズと深い関係がある。子どもがエイズについて知ることが、自身を守る(=子どもの権利を保障する)第一歩だと考えた子ども若者が企画した参加型WS。

当日の流れ:だるまさんが転んだ、でグループ分け。自己紹介をして、エイズについて自分が思うことをTシャツや紙皿、風船に書いた。企画者が参加した第二回子どもの商業的性的搾取(CSEC)に反対する世界会議(横浜会議)実際にいったカンボジアの状況を説明。横浜会議では誰でも被害者になりうることを学んだ。若者のエイズ感染の増加が問題視されている日本では尚更日本の子ども若者とエイズの間接性がある。横浜会議に子ども若者が参加してCSECを考えたように今年行われるはずだった神戸会議ではユースフォーラムが開催される予

定だった。子どもの参加の権利を保障することは、子どもを守ることに繋がる。グループで私達にできること、すべきことを語らった。今日思ったこと、これからやること等を赤い紙に書いてレッドリボンの形にした。それを封筒に入れ、レッドリボンレターとし、渡したい人に今日のことを伝え広めつつ渡してもらおうと持ち帰ってもらった。レッドリボンレターには、前向きなことが多々書かれていた。全体として、子ども若者大人を含めた参加者が、HIVを自分の問題として考え、地域、世代を超え、大いに話が弾んだ。企画者としても得るものが多いWSだった。

■連絡先:

〒105-0032東京都港区六本木4-7-14みなとNPOハウス4F

TEL&FAX:03-3746-0744

Email:ncrc@abeam.ocn.ne.jp

URC:http://www6.ocn.ne.jp/~ncrc/

代表者:喜多明人



今日思ったこと、これからやること等を赤い紙に書いてレッドリボンの形にした。

AIDS文化フォーラムの使い方

医療の最前線を知りたい方のために

エイズは1990年代当初はHIVを抑える薬がなく「死の病」と言われた時期もありました。しかし、プロテアーゼ阻害剤の出現、さらには非核酸系逆転写酵素阻害剤が使えるようになった時には「HIV/AIDSは薬でコントロールできる時代になった」と思った人が多く、予防しなくてもいずれは関知できる病気になったと思う人もいました。しかし、薬を使う人が増え、研究が進むにつれて服薬がきちんとできない場合は(薬が効かない)薬剤耐性ウイルスが出現することも明らかになってきました。

このようにHIV/AIDSの医療は日進月歩であるとともに、治療が進む一方で、治療を確実にするためには様々な工夫が必要であることが明らかになっていきます。医療の最新情報を正確に知ることは、その時代のエイズノ状況を知るためには不可欠です。

AIDS文化フォーラムでは毎年医療の最前線で活躍されている医師の方に最新情報を提供していただくプログラムをお願いしています。このプログラムは単に医療関係者だけのためではなく、治療をしている、あるいはこれから治療を受ける感染者の方へのセカンドオピニオンとしても活用していただけます。また、学校関係者がエイズ教育をする際にも大変役立つものになっています。

前の年に聞いたから、今年は聞かなくてもいいと思わず、毎年でも聞いていただきたいと思います。

<医師 岩室紳也>

■参加団体報告&メッセージ

途上国における治療リテラシーのプロジェクト

■主催:アフリカ日本協議会
保健分野NGO研究会

アフリカと日本の市民社会の架け橋をめざしています。活動の一環として、地球規模のエイズ問題についての情報紹介・アドボカシーに取り組んでいます。

■内容:アフリカからエイズとともに生きる二人のゲストを招へいしてシンポジウムを行った。ケニアのアスタ・ワグラさん(ケニア・エイズとともに生きる女性たちのネットワーク:KENWA)は、80年代後半に感染が判明して受けた様々な差別・迫害の経験を切り口に、患者・感染者が尊厳とともに生き、死ぬことのできる環境作りの重要性について語った。また、KENWAが現在行っている家庭訪問ケアやエイズ孤児へのサポートなどの活動を紹介した。ナイジェリアのモロラケ・ンワグさん(ナイジェリア・治療アクション運動:TAM)は、患者・感染者がエイズに関わる政策立案・提言

などアドボカシー活動やアクションに参画していくことの重要性について訴えた。また、エイズに関するケア・サポートおよび治療のあり方、患者・感染者がエイズ治療について学んでいくことの重要性について語った。本セミナーは、アフリカでエイズと闘う当事者たちの声を聞き、討論する重要な機会となった。

■連絡先:アフリカ日本協議会

担当:稲場 雅紀

東京都台東区東上野1-20-6

丸幸ビル5F

電話:03-3834-6902、FAX:03-3834-

6903 電子メール:ajf@mtb.biglobe.ne.jp

ウェブサイト:http://www.ajf.gr.jp

患者・感染者が尊厳とともに生き、死ぬことのできる環境作りの重要性について語った。

一緒に縫おう、ベビーキルト

■主催:ABCキルト横浜

エイズの赤ちゃんや親をエイズで亡くした子どもたちに励ましのキルトを作って贈るボランティアです。

発表内容:会場に、タイの施設や病院、南アフリカの子どもたちにキルトを贈っている様子の写真を展示して、ABCキルトのボランティア活動のことやキルトの作り方について説明。また、手作りのエイズ予防のしおりを配布し、参加者に自分だけでなく、家族や友人にもエイズ予防の必要性を伝えてもらうよう訴えた。しおりは年齢別に幼児用、小学生用、中高生用、大人用の4パターンを用意。しおりを使って親子でエイズについて話ができるように考えて作った。そのあと参加者全員でキルト作りを行い、学校関係者、保健所関係者

には取り組み方を説明。

参加者の感想として、どこかの国の子どもの役に立てるということを、豊かな国日本の子どもたちに知らせていきたい。キルト作りを通して、子どもたちの置かれている環境を伝えていけるプログラムであると思った。

主催者の感想として、幅広い年齢層がたくさん参加して交流をしながらキルト作りができたことは良かったと思う。

■連絡先:代表 上村春子

TEL/FAX 045-844-8124



ますますPositive！！！！！！

■主催:パトリック&紳也

■内容:パトリックはHIVとともにPOSITIVEに生きてきた。パトと友人&主治医の紳也のフリーハンドなトークを通じて感染してから14年になるパトがこの一年もまた元気に、そしていろんな活動を展開してきたことを報告する中から、「生きる」ということ、HIV/AIDSをと共に生きることにについて何かを感じてもらいたいセッション。

■来場者感想:HIV、AIDSについて伝えることって「病気予防について話す」ことではないのかも……。自分はこう考える、これを選ぶ、という意味を持つことの大切さを伝えることなのだなあと思いました。来てよかった(20代、女性、保健医療関係)。すごく楽しかったです。自分の思いを信じるのが今できなくすごく悩んでいました。パトリックの話を聞いて、どんな風に行きたいのかを思いえがき、それに向かって行動する事、そうやって生きてるパトリックさんの姿がすごくカッコイイと思い、感動しました。失敗を恐れていたけどパトリックさんの「いくらでもやり直せる」という言葉に背中を押された思いです。本当に

ありがとうございました(20代、女性、学生)。自分もけっこうポジティブな人間かもって思っていたんですが、今日あらためてパトリックと同じような考え方を持っている自分がいて、自分もポジティブ人間だったことがわかりました。みんながポジティブになれるよう仕事をしたい。(20代、女性、行政)

■連絡先:

パトリック TEL&FAX 03-5725-2347 E-mail:a4jbmmr@asahi-net.or.jp

岩室紳也 〒102-0093 東京都千代田区平河町2-6-3都道府県会館15階(社)地域医療振興協会ヘルスプロモーション研究センター

TEL 03-5212-9184

FAX 03-5212-9185 E-mail:shin.iwamuro@nifty.ne.jp HP: <http://homepage2.nifty.com/iwamuro/>



自分はこう考える、これを選ぶ、という意味を持つことの大切さを伝えることなのだなあと思いました。来てよかった。

AIDS文化フォーラムの使い方

感染者の方のために

私は日頃、エイズの講演活動等をしている感染者の一人です。感染者と言っても、医者ではありませんので、病気の特性については経験則として詳しいものの、「それが何故そうなるのか」については知りません。

よって、仕事や学業の中で自らの身体を体調を良い方に保ち続け、日々を過ごしていくには医師の話や他の感染者の様々な経験談等を知る必要があります。また、講演等の啓蒙活動をしていく上では、現在の問題点や、病気と社会との今日的な接点について知らねばなりません。

でない、如何なる主張をするのでも中身の無いものになってしまいますし、一般の来場者の方の質問にも的確な応対が出来ません。

以上のような理由から、我々が各プログラムに参加し理解を深める事は、実はすごく有意義なのです。

我々感染者は、いかに自分の人生を豊かなものにしていくか、という永久課題を負っています。差はあれど、それぞれが困難な日々を過ごしている事には変わりはないと思います。我々が社会に向けて「理解を求める事」や「警鐘を鳴らす事」も、いつか自分の周囲の環境を良くする事につながると信じています。未だ治療(を続けて毎日生きる事)が難しく、どう乗り切るかについては各々の取り組み—それはチャレンジと言っても言い過ぎではない—がある事でしょう。願わくば、文化フォーラムがそのチャレンジの支えとして、今後もあって欲しい。私や、大勢の感染者が普通の人と同じように暮らせる、その日まで。

<桜屋 伝衛門>

■参加団体報告&メッセージ

エイズ基礎講座 中学生／高校生のためのエイズ授業 「エイズってどんな病気なの」



■主催:2003AIDS文化フォーラムin横浜
運営委員会

■講師:神奈川県立弥栄東高等学校
教諭 安藤晴敏

■内容:日ごろ感じ、また自分の役割であろうと考えるAIDS基礎知識の講座ができ、内容は別として、10年目の区切りができたようだ。この文化フォーラムではいくつかの講座を担当したがいつも教科指導法が中心となり科目「保健」の学習内容で参加したのは初めてである。

内容としては「現代社会と健康」の「エイズとその予防」の単元の中で扱う指導内容としてはかなりの部分が網羅されているかと思う。しかし、実際の授業ではここまでやる必要もなく、やる時間もない。ま

た、それだけの資料がそろうかというところの疑問も残る。しかし会場で配布したワークシートは実際に授業で使用しているものである。

中学生、高校生を対象の講座だったが参加者に教育関係者も多く2日目は指導法を交えた内容となったが、3日目はいつものような授業そのものを行うことができた。

今年もそうであるが、全国から参加して頂き、この輪を全国へ広げるとともに、もっと多くの保健体育科教員の参加を期待したい。

仕事の苦勞や薬のこと
など語ってもらいました。

薬害エイズを語り続けて

■主催:薬害エイズを考える山の手の会

■内容:

薬害エイズの裁判は、7年前に和解しました。その後、薬害エイズ被害者の生活が変わらない現状を山の手の会では、地域の人々と共に薬害被害者を通じて語り続けてきました。薬害エイズの被害者(本人・遺族)と支援者が、被害者の日常生活について共有することをねらいとしました。

当日は、まず、薬害エイズの被害者で元大阪HIV訴訟原告団長であり現衆議院議員の家西悟氏(フォーラム開催時)の日常生活をテーマにしたビデオを参加者と一緒に見て、被害者本人・遺族に感想と日常生活について語ってもらい、HIV訴訟の支援活動に関わった支援者から、被害者に対して質問してもらいました。参加者には被害者本人も数名参加し、仕事の苦勞や薬のことなど語ってもらいました。後

半は参加者からの質問をもとに参加者全員で討論形式で、薬害エイズ被害者の日常生活について話し合いました。

■来場者感想:以前はマスコミでも随分取り上げた薬害エイズだが、このところ情報も少なく情報を得たいと思い参加しました。／差別なく気持ちよく生きられる社会を希望し、また、自分自身も意識を高めていきたい。／大勢の人々が色々な分野で一生懸命活動したり考えたり悩んだりしていることに触れて勇気づけられる。

■連絡先:

〒169-0075東京都新宿区高田馬場
4-26-12-103

薬害エイズを考える山の手の会／江川守利

TEL&FAX 03-3364-3733

E-Mail:uy53814@blue.b-city.net

http://yamanote.hoops.ne.jp/

エイズの危機にさらされる子どもたち

■主催: ふれきしぶる 西尾留美子

■内容: 講師にユニセフ協会の森田氏をお願いし、成功でした。HIV/AIDSに感染した子どもや若者たちの映像と声をビデオ上映、その後セミナー形式で参加者のグループトークで意見を聞いていく、その間に初めて出会う参加者同士も情報を交換したり、意見を言い合ったりして考えが進んでいった感じでした。トークのテーマは「どうして感染が広がったか」「日本で、自分にできることは何か」など。

他県からの参加者も多く、心配された人数はクリアされましたが、久しぶりに晴れた8月の第一日曜日のせいか、地元横浜の参加者が少ないように思いました。

展示では絵本「子どもの権利を買わないで」の原画コピーを展示。絵本の売上は両方で9冊となりました。ありがとうございました。

■参加団体用感想・意見:

セミナーではボランティアの方が受け付けなどしてくださり、大変助かりました。展示の場所決めが「あみだ」くじというのよ

かったです。

最終日の振り返り(10年間)では、岩室先生や県の職員の方その他の皆さんのお話に継続することの大変さを感じました。今回は学校の先生が多く参加されたとのこと、現場での実状が心配されると同時にこれからの学校での取り組みに期待が持てました。私も大学生にコンドームを渡したりしましたが、あまり反響はありませんでした。こちらの方が何か浮いてしまいました。やはり「性」の問題は「生」の問題と言われても、一般的な会話の中では難しい物があると感じました。



子どもの権利を買わないで

AIDS文化フォーラムの使い方

ボランティアしたい方のために

ボランティアに興味のある皆さん、このフォーラムの会場ボランティアは1日から参加できます。そして、小学生から70代位までの方々が世代を超えた交流をしながらボランティアとして会場運営をして下さっています。

会場ボランティアは、受付・会場セット・案内・アンケートの配布や回収、緊急時の事務局への連絡などの役割を担っています。ちょっとした力仕事、スマイルが重要な役割、正確さが大切な役割とさまざまな側面から会場運営を体験できます。また、事前のボランティア・オリエンテーションでは、AIDSの基礎知識、当日の役割の説明、そしてボランティア同士での自己紹介などを行います。事前に一緒に活動するボラ

ンティアの顔がみえることで、当日は安心して会場運営ができます。

また、今回が初めてのボランティアという方が多いのもこのフォーラムの特徴です。そして、何年間か続けてボランティアとしてフォーラムを支えて下さっている方もいます。そんなみなさんの出会いと出会いから生まれるパワーが、活気あるフォーラムを作ってくれています。

2004年のフォーラムでは、あなたがボランティアとして生き生きとした表情で会場運営を支えてみませんか？

〈フォーラム・ボランティア担当 矢部尚美〉

■参加団体報告&メッセージ

映像を使ったクラミジアの実態



■主催:AIDSネットワーク横浜(ANY)
1993年2月 AIDSに対する知識・理解を深める活動を行うことを目的とした、ボランティア団体です。

講師:横須賀市民病院産婦人科医長 今井一夫

協力:第11期ボランティア学校メンバー

■内容:

ねらい:活動の中で我々はクラミジア性病の知識を得て、性感染症の奥深さを知りました。性病は自分だけの病気ではなく身体の健全な機能も失われてしまい、結婚してから不妊という形で現れたりします。クラミジアが女性の体の中でどのように悪影響するのかを、映像で実際の癒着を見て理解を深めてもらいたい。

ながれ:横須賀市におけるHIV抗体検査とクラミジア感染の検査方法と、その努力を紹介しながら感染の実態や状況を数字で示す。今井先生が日々診察されている日常のなかでクラミジア感染による不妊症治療を、VTRとその解説を聞く。性感染症初期に治療しなかった結果の因果

関係を、症例毎に感染から治療結果を説明されることにより納得しやすい講演でした。

■感想 (高瀬ナオミ記)

今の仕事は胃と腸を内側から見ているので(内視鏡検査室)久々のおなか中でした。大腸の内視鏡では、おなかの癒着があると患者様は苦痛が強く検査側はスムーズに入らず大変です。開腹手術を受けなくても癒着がこんな悪さをするとは大変勉強になりました。病気もAIDSも予防が大切であると、再認識させられました。フォーラムは多数の参加があり皆様が一生懸命映像を見ているのが伝わりました。

■連絡先:〒231-0015 横浜市中区尾上町3-39 尾上ビル9階
(関内駅徒歩1分)

TEL : 045-201-8808 FAX : 045-201-8809

E-mail : any@netpro.ne.jp

とても元気になりました。

W.YOKOのHow to Make AIDS WORKSHOP? Part3

■主催:エイズを伝えるネットワーク TENCAI

エイズ、性、人権などの問題を切り口に、参加者のセルフ・エスティームを高めるワークショップを開催しているボランティアグループです。

ファシリテーター:鮎川葉子&吉永陽子 (TENCAIメンバー)

■内容:エイズ啓発の手法として、学校や職場で使えるワークショップの手法を理解し、実際にワークショップが運営できるようになるための、スキルトレーニングを紹介しました。このプログラムでのフォーラム参加は3回目です。例年、丸一日連続で受講した方には修了証を発行していますが、今年の修了生は2名でした。

方法:初回は全体を理解するための導入と運営上の留意点、2回目は実際の進行を体験しつつワークショップの考え方を概観、3回目は参加者自らが進行役を経験してみました。すべての回で具体的なワークを体験する、体験・参加型のプログラムを行いました。

■来場者感想:とても元気になりました。/参加型なので、どきどきしました。/相手と分かり合えることは、違いを分かり合うこと、ということがわかっているようで、わかっているなということがわかりました。みんなと話し合うことは、とても楽しかったです。

■連絡先:エイズを伝えるネットワーク TENCAI E-mail:mail@tencai.jp(アクセスはメールが一番早いです)



SARS エイズの教訓は生かされているのか

■主催:

1. 第7回アジア・太平洋地域エイズ国際会議組織委員会
2. 保健分野NGO研究会
3. AIDS&Society研究会議

1は神戸で開催される第7回アジア・太平洋地域エイズ国際会議の準備・運営のため研究者、HIV感染者、NGOメンバーなどで構成される委員会。会議は2003年に開催予定だったが、SARSの流行の影響を懸念し、2005年に延期。

2は外務省と保健分野で海外援助協力などに取り組むNGOで構成される懇談会が中心になって継続している研究会。

3はHIV/エイズについて、広い視野から対策を考え、活動する特定非営利活動法人。

■内容:SARSの流行についての理解を深めるとともに、エイズ対策とSARS対策の相違点と共通点を検証しつつ感染症対策としてのエイズ対策の今後の方向性をさぐることを目的に8月2日午後の2コマを使い、第1部感染症専門家に講演、第2部ディスカッションの2部構成で実施した。

第1部では厚生労働省のSARS対策専門委員である東京大学医科学研究所の岩本愛吉教授がSARSに関する最新の情報を中心にして、医学的特徴、対策のあり方などを報告。スライドを交えた報告は分かりやすく、参加者からも好評を得た。

第2部は、大阪HIV訴訟原告団の花井十伍代表、都立駒込病院の根岸昌功院長、SHARE(国際保健協力市民の会)の沢田貴志副代表、慶応大学文学部の樽井正義教授がそれぞれ、感染当事者、病院現場の医療従事者、外国人医療に携わる医師、生命倫理の研究者の立場からSARSにまつわる社会現象や報道に対する見解を交え、報告を行った。会場からの意見も含め、感染の拡大を社会

的に防止するための公共政策的視点と、個人の権利を擁護することによって対策の遂行をより効果あるものにもする人権重視の視点との双方のバランスが大きな課題になることが認識された。未知の感染症の流行の初期においては社会的な恐怖と不安から往々にして個人の権利を著しく制限するような社会防衛的対策に大きく振れる可能性が高いこと、社会的に弱い立場にある集団が不当な扱いを受け、それが対策を逆に困難にするおそれがあること、社会の対応にはメディアの報道が大きく影響することなどが課題として指摘された。

議論が十分に尽くされたとはいいがたいが、今後も繰り返し検討されるべき課題に議論の道筋を開いたという点で、主催者としては意欲的かつ実りある催しであったと考える。

■連絡先:

東京都千代田区大手町1-7-2
産経新聞編集局次長 宮田一雄
電話 03-3275-8702
E-mail miyata@mxy.mesh.ne.jp



エイズ対策とSARS対策の相違点と共通点を検証

■参加団体報告&メッセージ

エイズ基礎講座 コンドームをどう教えるか

■主催:2003AIDS文化フォーラムin横浜
運営委員会

■講師:岩室紳也

■内容:

ねらい エイズを予防するにはノーセックスかコンドームを使うかのどちらかである。しかし、いざコンドームを教えるとなるとどう教えていいかわからないという声が少なくない。コンドームを教える上でのコツを考える。

ながれ 6つのテーブルを囲むようにグループに分かれ、各テーブルの中心には様々なコンドームがおかれている。はじめて触る学生もいたが、これだけおかれるとかえって抵抗感がない。コンドームの効用と限界の講義と共に、実際に教えるとしたら詳細な装着法を教える一方で「コンドームは100%安全ではない」ということも伝えることが重要であることを共通理解した。

■来場者感想:最初山積のコンドームを見て「うわぁー」と思いましたが、プログラムを受ける心構えができました。先生の

思いが伝わってきて、自分が「気恥ずかしさ」を越えて子どもたちに伝える大切さを考えました(40代、男性、教育関係)。少し抵抗がありましたが娘とあたり前のように聞けてよかったです(30代、女性、主婦)。自分の中でコンドームがとても身近になったので子どもたちにも今までとは違ったメッセージができるかなと思います(30代、女性、教育関係)。教師は学習指導要領にのっとって学校でやる。やれないところは保健所など他の講師にやってもらおうという話は私も知恵がついた。(50代、女性、教育関係者)

■連絡先:岩室紳也 〒102-0093 東京都千代田区平河町2-6-3都道府県会館15階(社)地域医療振興協会ヘルスプロモーション研究センター TEL 03-5212-9184 FAX 03-5212-9185E-mail:shin.iwamuro@nifty.ne.jp HP: <http://homepage2.nifty.com/iwamuro/>



自分の中でコンドームが
とても身近になった

HIV感染者の食生活と口腔衛生管理

■主催:特定非営利活動法人 HIVと人権・情報センター

HIV感染者をはじめあらゆる人々の人権やいのちが大切にされる共生社会をめざして活動。今年で設立15年。

■内容:HIV感染者のニーズ調査から、日本のHIV感染者の多くが栄養支援、歯科受診、口腔保健管理を必要としながらも、その機会が十分に得られていない現状が明らかになっている。栄養に関しては、世界では既にHIV感染症と栄養の関係、免疫と栄養の関係について深く関わりあっていることが科学的に証明され、感染初期から栄養管理の重要性は共通認識となっている。歯科に関しては、HIV感染者の口腔保健管理を積極的に進めることで、口腔カンジダ症の予防などAIDS感染症状の発症を防止し感染者・患者の生命を守ることになる。また、HIV感染者の

受け入れ態勢ができていない歯科診療の現場においては、逆に院内感染防止の側面から見てHIVに限らず様々な院内感染が想定され「ユニバーサルプリコーション」の考え方に基づいて対策を講じていく必要がある。HIVと人権・情報センターが制作した感染者向けの冊子「栄養と滋養」と日常的な口腔保健管理の要点をまとめた冊子「健口から健康へ」の紹介をしながらお話をした。

■連絡先:

〒101-0047 東京都千代田区内神田1-2-2 吉田ビル2F

特定非営利活動法人HIVと人権・情報センター

Tel:03-5259-0622

Fax:03-5259-0643

E-mail:Tokyo@npo-jhc.com

ホームページ:

<http://www.npo-jhc.com>

10代女性をとりまく性情報について

■主催:CAI&岩室紳也

■内容:今年度は、「10代の女性を取り巻く性情報」をテーマに発表を進めました。女性の中でも、10代に的を絞ったのは、私たち発表者が同世代の立場から10代の女性の性情報を調べたら面白いのではないかと考えたからです。また、性の低年齢化が進み、10代の性行動が活発化していることが原因で、今までに水面下にあった性の問題が明らかになってきていると考えたからです。

10代の女性の性情報というテーマを取り上げる中で、10代の女性の情報源となっている雑誌、“エルティーンスペシャル”や“ポップティーン”という雑誌を主に取り上げ、どういった情報が掲載されているのかを発表しました。その上で、会場のみなさんを巻き込み、ディスカッションを行ないました。このような雑誌の存在すら知らなかったという声も多く、また、違う世代の方とディスカッションの機会をもてたことが素晴らしい経験になったという声も多く寄せられました。

性体験の低年齢化・中絶・性感染症の問題だけに留まらず、より若い女性の商品化が進む中、社会やマスコミをただ批判するだけでなく、いかにすれば自分も責任を持ち、楽しみながら性情報と付き合っていけるかを今回の発表で考える機会を持ってました。

今後は、ジェンダー・性・女性等幅広い視野から調査を進めていきたいと考えています。社会やマスコミをただ批判するだけでなく、いかにすれば自分も責任を持ち、楽しみながら性情報と付き合っていけるか

■連絡先:〒111-0033 東京都台東区
花川戸1-2-8-801 CAI 渡部享宏
tel,090-3962-0221
fax,03-3845-5213
E-mail:cai@circus.ocn.ne.jp



社会やマスコミをただ批判するだけでなく、いかにすれば自分も責任を持ち、楽しみながら性情報と付き合っていけるか

AIDS文化フォーラムの使い方

たまたま通りかかった方のために

AIDS文化フォーラムの会場、かながわ県民センターの前を本当に沢山の人が通りすぎていく。その中の一人の男。男は、8月のあまりの暑さにうんざりし、涼を求めて、たまたま通りかかった県民センターに一步、足を。するとどうでしょう。そこには、多くの笑顔と熱気がありました。中学生かな? 渡されたチラシを見ると「AIDS」の文字、ふーん。展示場に入ると、いろんな展示といろんな人たち、目からウロコがぼとりと落ちる。自分には関係ないと思っていたAIDSがとても身近に。もっと知りたい。3階で基礎知識を聞く。次は朗読に参加。そしてコンドームの達人になる。感染している人と初めて握手。外国の状況も見えてきた。ワークショップというのも面白い。そういう考えもあるよね! 自分の意見を言うのも久しぶり。あつと言う間の一日。明日は彼女を誘って来よう。来年はボランティアで参加するぞー。

Q.このフォーラムで特に印象に残った点は何?

A. 大変な問題に笑顔で真面目に取り組んでいる姿かな。中学生ボランティアの頑張る姿、そして全国のあちこちから参加者が集まってきていることも。特に、感染している人が普通に参加していて、いろんな人がいることも分かって、当たり前なことだけど、自分たちと同じだってこと。何か「生きる」ことをあらためて感じています。

Q.これからの抱負は?

A. 自分もボランティアという立場で、自分が感じたことを、昨日までの自分と同じ多くの人たちに伝えられたらいいなと思っています。…

というように、AIDS文化フォーラムは、たまたま通りかかった人の人生を変えます。

今度は、たまたまこの報告書を読んでいるあなたの番かな? <岡島龍彦(H.I.Voice Act)>

■参加団体報告&メッセージ

心と心をつなぐ腹話術 ～教育プログラム～



いかに子どもが性搾取に巻き込まれる危険が身近にあるか、

■主催:JOINT HEART

■内容:思いのまま感じたことを伝えるために腹話術を用いたコミュニケーション方法を分かりやすく広める活動をおこないます。

[はじめに] エイズや結核は現在でも多くの健康被害者を出しており軽視できません。2010年頃に爆発的発生が予想されています。なんとか予防することはできないのでしょうか。

[目的] ①性感染症の予防②結核の予防③健康腹話術の普及④行政の立場でなく行政にできない隙間をうめる

[対象者] ①小学生②中学生③青少年④高齢者⑤その他～幼児・妊婦など

[ねらい] ①自分の誕生や男女の違いを正しく受け止め、生き物の誕生や成長にも気づき、いのちの尊さを感じとる。

②男女には、それぞれ違いがあるが、どの友達も同じように大切であることを知り、友達を思いやる心を育て、将来の男

女の人間関係の基礎を築く。

[プログラム]①教育プログラムvol,1

「あなたも、わたしもたいせつなからだ」

②わらってげんきになろう!

みんなで腹話術チャレンジ

③教育プログラムvol,2

「こころとからだのふしぎ」

[評価方法]①アンケート

②自己評価

③第三者評価

[まとめ]HEALTHY HAPPY FORUM

■連絡先:Fax0743-78-9841

代表者氏名 畠山雅行

今後の連絡先

Email m-hatake@m4.kcn.ne.jp

ちょっと考えてみよう! 携帯電話と子どもの人権

■主催:ECPAT/ストップ子ども買春の会
国際ECPATの公式関連団体として、子どもの商業的性的搾取根絶を目指して活動を行っています。

■内容:国際的な子どもの商業的性的搾取の状況の中で、急速に発展するネット社会の出現に伴い新たな問題が生じています。特に日本国内においては、モバイルインターネット(携帯電話)からのアクセスによる「出会い系サイト」の問題が顕著です。いかに子どもが性搾取に巻き込まれる危険が身近にあるか、この現状を知り、子ども達がネット社会を安全に使用するためにどうしたら良いかを参加者と考えるワークショップを開催しました。

グループ(家庭、学校、地域)ごとに日常的に起こる得る状況(例えば「お話するだけで5万円あげるよ」というメールを自分の

携帯電話で受信した子どもはどうしたら良いのか…?等)を投げ掛け、ロールプレーを行ないながら議論し、発表を行ないました。

最終的に「インターネット上の子どもの安全ガイド(発行:国際ECPAT)」に掲載されている「ネットスマートルール」を示し、具体的な予防手段を提供しました。

■連絡先;

〒169-0073

東京都新宿区百人町2-23-25

矯風会第2会館

電話 03-5338-3226

FAX 03-5338-3227

HP <http://www.ecpatstop.org/>

エイズ基礎講座 予防に必要な基礎知識の啓発

■主催:2003AIDS文化フォーラムin横浜運営委員会

■講師:吉永陽子(長谷川病院精神科医師)

■内容:予防を必要とする人にとってAIDSについての基礎知識が役にたつと思う理由は、必ずしも科学的にみて正確・医学的であるからというわけではない。学校教育の中で先生が話したから予防に役立てようと思っているわけではない。予防に必要な基礎知識そのものではなく、予防行動が実践されてはじめて役に立つ基礎知識をいかに啓発するのかを考える講座。講座は一方的な講義形式ではなく、小グループに分かれて話し合い発表する。

啓発の際は、性に関する内容にふれる場であることから、その場が安全な場である

ことの配慮が必要であること。聞き手が思春期である場合には、思春期の心的特性を話して理解していること。望まない性行為についてNOという場面では、問題解決技能訓練が必要であり、精神科リハビリテーション領域で行われているSSTを応用することを提案した。

■来場者感想「参加型であつという間の2時間でした」「視点を変えて考えることができました」「楽しく伝える方法がよくわかりました」「今後の授業にいかして行きたい」「『原因を追究しない』という言葉が印象的」

■連絡先:AIDS文化フォーラム事務局



感染者の方が参加し、直接、自分達の言葉で話をしてくれておりますが、実は、それはこの横浜文化フォーラムだけの話なのです。

AIDS文化フォーラムの使い方

フォーラムに参加したい団体の皆さまに

このAIDS文化フォーラムは、やはり開催する必要があるフォーラムであると強く感じております。そしてエイズの活動を行っているボランティア団体は参加する義務もあるものと思っております。それは、参加自体が啓発活動になるからであります。エイズの言葉や文字が目にとまりにくい現状では、どんなきっかけであれ啓発活動を重要視して、自分達の方から出掛けて行かなければならないと思うからであります。

私達「ぼーとたまがわ」は、感染者の直接支援の活動を行っておりますので、出来る限り「感染者の方の直接の声」届けたいと思って毎年取り組んでおります。それが私達の活動の特色を活かすものと考えています。現在のAIDS文化フォーラムでもそうなっているように、それこそいろんなスタイルでの参加が理想だと思っております。このスタイルが今後も変わらずに継続して行くことを望んでおります。

私達のフォーラムブースでは、感染者の方が参加し、直接、自分達の言葉で話をしてくれておりますが、実は、

それはこの横浜文化フォーラムだけの話なのです。他でこれらの話をしたことはないのです。彼らが言うには、「ぼーとたまがわ」が参加するから出て行くのであり、また、AIDS文化フォーラムだから参加するのだ、と言っています。その日はあのビル全体がエイズの話で満ちるので安心して顔を出せる、のだそうです。このフォーラムへの参加に関しても、私達は特別な要請はしておらず各自の判断にまかせております。

この様に参加をする私達の方でもいろいろな検討を行い参加をしているのですが、開催側のスタッフの皆様や多くのボランティアスタッフの皆様に対しましても感謝を致しております。また来年も開催される事を祈っております！

〈参加団体 ぼーとたまがわ〉

■参加団体報告&メッセージ

エイズ治療最新情報



■主催:立川夏夫(国立国際医療センター)

■内容:HIV/AIDSのNGO/NPO活動や感染者や患者と接する機会のある人、もしくは当事者に必要な最新知識を提供すること。

ながれ:

HIV感染症の知識をパワーポイントを使用し視覚的に見ても分かりやすいように専門性の高い治療の話など分かりやすく工夫し説明した。また、知識だけでは無く、臨床医の体験・経験を交えてクライアントの接し方のポイントなど紹介した。当事者にとっても専門医の立場から話を聞く良い機会を提供したと思う。

■連絡先:

〒162-8655 東京都新宿区戸山1-21-1
国立国際医療センター
エイズ治療・研究開発センター
TEL:03-3202-7181(代表)

他の国で行なわれている性教育を大学生が日本独自にアレンジし、これからの新しい性教育を提案しました。

医学生・医療学生による性教育PROJECT

■主催:IFMSA(国際医学生連盟)

WMA(世界医師会)/WHOによって、公式に医学生を代表する国際フォーラムとして認められた非営利・非政治の国連NGOです。2001年8月現在72カ国が正式加盟し、約70万の医学生を代表しています。

■内容:性教育者としての教育を受けた大学生が実践性教育として、フォーラム参加者と一緒になって新しい形の性教育をおこないました。「ICE Breaking GAME」から始まり「性と生殖にかんするYes Noクイズ」や「コンドームの豆知識」「サイコロで決定したお題でロールプレー」などWorkshop形式で行いました。

他の国で行なわれている性教育を大学生が日本独自にアレンジし、これからの新しい性教育を提案しました。最後に参加者から意見の交換し全体の振り返りを行い

ました。

参加者は総人数25人ほどでしたが2時間のコマでは時間が少ないぐらいでした、参加者の中には高校生や中学生も何人も参加してくれました、「コンドームには水が何リットル入るでしょう?」といった質問には中学生が実際にバケツいっぱい水で膨らんだコンドームを作ってくれ、とても盛り上がりました。

参加者主体の2時間のプログラムが作れたと思います。

■連絡先:IFMSA-Japan Home page
<http://ifmsa-j.umin.ac.jp/>

性と生殖の委員会メーリングリスト scora-japan@egroups.co.jp

連絡先は 上記のメーリングリストにメールをいただければ担当者が対応させていただきます。



「性」教育は「生」教育

■主催:HANA

～Happy Aim with New Action～

慶応義塾大学の研究会から発足した若い団体で、「性」教育は「生」教育を信念に性の大切さを伝えています。

■内容:大人、子どもを問わず「性」についての情報が氾濫し、私達の「性」は、市場の商業戦略の影響をあまりにも受けているように思います。そういう点では、日常生活でも「商業的性的搾取」が行われているということを実感し、性と向き合うことで自分の身、また、自分にとって大切な人の身を守れることにつながると考えます。自分自身をよく知り、自分を大切にすることによって初めて他人を大切にすることができる、だからこそ「性」を考えることは、「生」を考えることだと思います。メディアで流れている情報の多くは歪んだ性情報であり、デリケートなテーマだけに話し合う機会は少なく、その歪んだ情報が正しいと信じている人が多いと感じます。しっかり性と向き合うためにはどの情報が正しくて、どの情報が間

違っているかということを見極める力が必要です。普段は見る機会がないいわゆる「エロ雑誌」や一見普通のファッション雑誌に掲載されている性情報を見て、どうやって受け止めるかをディスカッションやブレインストームして考えていきます。

■連絡先:HANA

～Happy Aim with New Action～

代表者:山本 幸Tel:090-9014-8224

yukinko411@hotmail.com

<http://www3.to/ha-na>



自分を大切にすることによって初めて他人を大切にすることができる、

ボランティアからのメッセージ①

私がAIDSフォーラムに参加するきっかけをくれたのはフォーラムで講演もして下さった水谷修先生が始まりでした。さらに水谷先生の声に引かれた私は、思い起こしました。95年の9月に「がんばってください。」と言う私の握手に「がんばりましょう」と投げ掛けた川田龍平さんとの出会いでした。15歳の私は世間で話題になってるエイズと言う事に興味があり、又間違った情報の多い中…真実を知りたかった。でも「がんばりましょう」と、言われた私は、とても動揺しました。一緒に手を握り合い訴える術を知らなかったからです。その時の私にはなんと一方的で人事の様な握手だったか?と落ち込んだ事を覚えていま

す。しかし今年AIDSフォーラムに参加する事が出来て本当に良かった。沢山の友達と手を繋げたし、嬉しい出会いも学びも考えさせられる事もいっぱいあったから…又 来年も是非AIDSフォーラムに参加したいと思います。

〈ボランティア 西尾エミ〉

■参加団体報告&メッセージ

若者の声を神戸から世界に送信 ～世界へ広がるユースの輪～



若者としてHIV/AIDSに関する活動をする上で
の困難や知恵を共有
し、エンパワーしあう。

■主催:ユース・フォーラム

私たちはHIV/AIDSに関わる若者のネットワーキングを目的とするユース・フォーラム2003in神戸の運営委員会です。

■内容:

HIV/AIDSについて興味を持っていたり、活動している若者たちが出会い、若者としてHIV/AIDSに関する活動をする上で
の困難や知恵を共有し、エンパワーしあう。

ながれ:まず、ユースとして活動をする上でのやりがいや困難について1人の若者のスピーチをきいた。次に現在若者がどのような環境にいるか共有するため、「初めて得たHIV/AIDSの情報」「ユースとメディア」の2つのグループに分かれてワークショップを行い、グループで意見をまとめ発表しあった。最後に2003年11月に神戸で開かれるユース・フォーラムin神戸のお知らせをした。

発表のようす

「初めて得たHIV/AIDSの情報」

参加者各人が初めてHIV/AIDSの情報を得たときのことについて話した。そこで、初めてHIV/AIDSの情報を得たときと次にHIV/AIDSを身近に感じられるまでに空

白の時間があるということがわかった。HIV/AIDSを身近に感じられる情報・性教育の性質として「実践できる」「ピアで話すことができる」というキーワードが考えられた。

「ユースとメディア」

現在ユースとメディアの間にどんな問題点があるか、各自の問題意識を話しあい、「どのようにユースの声をメディアに伝えていくか?」という課題について意見を出し合った。「ユースのエンパワーメント」「メディアとのパイプラインづくり」などをユース自身が努力していく必要性を認識した。

■来場者感想:「日ごろはなかなかできない話だが、今回みたいに話し合える場があつてよかった。今後もこのような場が広がっていけばいいと思った。(22歳大学生)」

■連絡先:

ユース・フォーラム実行委員会

<http://www.y-aids.org/yahyahyah/>

学校や地域で役立つ朗読ワークショップ

■主催:H.I.Voice Act

H.I.Voice Actは、H.I.Voice誌を活用したワークショップなどで、HIV/AIDSへの理解を深める作業を重ねています。

■内容:各地で開催している朗読ワークショップの趣旨を説明しながら、伝えるためのスキルを解説した。全国各地の専門職と県内の中学生たち30名が参加し、自己紹介やゲームなどでリラックスした後、Voice誌の輪読で深く感じる時間を共有した。

■来場者感想:一人ひとりの大切な命を

感じる事は、一人ひとりの思いや感情を知る事から始まる事、生活の中の思いを知る事から始まるのだと感じました。ありがとうございました。(愛媛・女性・40代・教育関係) /大切なことを考えさせられました。学校でも、何とか、こういったことを授業に取り入れられないかと思ひます。(山形・女性・40代・教育関係)

■連絡先:岡島龍彦

tatu-hiko@mpd.biglobe.ne.jp

090-2468-8014



息子からの贈り物

■主催:H.I.Voice Act

H.I.Voice Actは、ワークショップなどで、本人や家族の直接の声を伝え、HIV/AIDSへの理解を深める作業を重ねています。

■内容:HIV/AIDSで息子さんを亡くされたJIZOUさんの話しを聞き、この病気と家族のかかわりを参加者と一緒に考えた。JIZOUさんに、息子さんが自分の病気を家族にカミングアウトしてから亡くなるまでの5年間の様子(彼の夢・生き方・母親としての思い・友だちとの交流等)を淡々と語ってもらい、若い世代に伝えた。

■来場者感想:小、中、高校生 若い人にこの話を聞いてもらいたいと思いま

した。この話がHIVに感染する人も減らすことにつながっていけると良いと思います。私たちに話してくれてありがとうございました。(神奈川・男性・10代・学生) / 息子さんからの贈り物、本当にどうもありがとうございました。うちの中学生にも、息子さんからのメッセージを分かち合えたらと思います。(横浜・女性・40代・教育関係)

■連絡先:岡島龍彦

tatu-hiko@mpd.biglobe.ne.jp
090-2468-8014



この病気と家族のかかわりを参加者と一緒に考えた。

AIDS文化フォーラム10周年に

参加団体からの一言メッセージ

◇毎年このフォーラムでの他団体、人々との出会いを大切にしています。(横浜エイズ勉強会)

◇みなさんの熱い思いにはいつも頭が下がります。このフォーラムがさらに続いていくことを祈ります。(水谷修)

◇毎年、これだけ多くの人たちが集う場は他に例を見ない貴重なものです。来年も参加させていただきます。(LAP)

◇これからも私たちにいろいろなことを感じたり、考えたりする機会を与え続けてください。(ABCキルト横浜)

◇10年という時間を積み重ねていただいたことに感謝します。エイズ新情報の収集、今はここだけです。(安藤晴敏)

◇市民による市民の為のフォーラムも今年で10年。年々深みと広がりを感じていく「力」を感じ取ることができました。(神奈川県衛生部保健予防課)

◇横浜国際AIDS会議よりANYも参加すること7回、先進国で感染者数増の日本の為に続けましょう。(AIDSネットワーク横浜)

◇継続は力であるということを改めて感じました。会場では長沢さんから文化フォーラム生みの親である南定四郎さんのお話も聞くことができ、懐かしかったです。神戸会議に引き続きご支援いただけることを心強く思います。(アジア太平洋地域エイズ国際会議組織委員会・宮田)

◇国際会議に気軽に市民が参加できないことから始まったこのフォーラムが10周年とは…。委員の皆さんのたゆまぬ意志に敬意を表します。(エイズを伝えるネットワークENCAI)

◇横浜の国際AIDS会議から10年。その頃の思いを市民に伝え続けてきたフォーラム関係者の皆さんに感謝です！(特定非営利活動法人HIVと人権・情報センター)

◇参加者の反応がよかったので、来年も参加いたします。10回目で満足することなく20回目を目標として頑張ってください。(JOINT HEART 岡山)

◇今年は、フォーラムのボランティアの方も参加者となって議論に参加してくれたことがとても良かったです。(ECPAT/子ども買春の会)

◇来年も参加したいと思います。若い世代からもメッセージももっと送っていききたいと思います。(IFMSA-Japan)

◇さまざまな団体の方と知り合うことができ、ネットワークも広げることができて勉強になりました。楽しかったです。(HANA)

◇性の問題を取り扱うことがタブーになっている風潮がありますが、みんな負けないで(SWASH)

◇参加してくれた人々と多くのことを話し合うことができました。みんなの意見をユース・フォーラムで生かしたいと思っています。(ユース・フォーラム実行委員会)

◇「継続は力なり」で、若いボランティアの活動に感動しています。(性を語る会)

◇様々な方が集まるフォーラムは効果的なエイズ対策を作る大変重要な場です。今後もよろしくお願いします。(PNY ぴにい)

◇セミナーではボランティアの方が受け付けなどしてくださり、大変助かりました。展示の場所決めが「あみだくじ」というのもよかったです。今回は学校の先生が多く参加されたとのこと、現場での実状が心配されると同時にこれからの学校での取り組みに期待が持てました。(ふれきしふる)

◇ここに参加させて頂くと必ず新しい出会いと交流が生まれます末永く継続する事を祈っています。("人間と性"教育研究協議会かながわサークル)



学校での性教育実践は、校長等管理職が性教育を理解していないと非常に困難になる。

■参加団体報告&メッセージ

考えよう！保健所をうまく使う“エイズ対策”

■主催:ぴにいPNY(Peer Network Yamagata)

PHA、NGO・NPO、学生・PTA・教育者、医療関係者・行政等、様々な立場から、HIV/AIDS予防対策・保健所活用を考えている会です。

■内容:有効なHIV/AIDS・STD対策を行う為の保健所活用について、様々な立場から一緒に考えていくことを目的に開催しました。

◇報告:①PNYの活動報告 ②対策を効果的に行うための保健所・NGOへの要望等アンケート結果について

◇グループワーク:①NGO・教育者・行政・一般等に分かれ保健所をうまく使う“エイズ対策”について話し合う ②ランダムな組み合わせでお互いに補い合える所・PRの方法・エイズ対策について話し合う

◇話し合いのまとめ:若者の性は変わっ

ているのに保健所のPR方法は10年前と変わっているのだろうか。学校ではエイズが増加していることすら教師も子どもも知らない場合が多々ある。多くの人にこの現状を伝えることができるのは学校教育の場である。保健所も縮小しマンパワーも低下しているため、保健所でないと出来ないことを明確にしていく必要がある。今後の保健所は、学校のエイズ教育のアシスタント役や養護教諭・校長との連携、家庭で親が子どもの教えられるエイズの資料作り等をしていく必要がある。そのことによって学校・地域のエイズ対策が効果的に進んでいくのではないだろうか。

■連絡先:

代表 渡會(わたらい)睦子

E-mail: mutsuko@mub.biglobe.ne.jp

〒990-2212山形市上柳260(山形県立保健医療大学内) TEL:090-2272-0122

FAX:023(686)6676

性と生を大切にできる性教育をしよう！

■主催:ぴにいPNY(Peer Network Yamagata)

HIV/AIDSや性感染症の予防対策を考え、性教育教材作成や講演会等を行っています。山形市内全小中学校で使用いただいています。

■内容:関係機関が連携し自分の性と生を大切にすることが出来るようになる、系統的・継続的性教育を検討することを目的に開催しました。

①先駆的小学校の事例発表

八千代市立八千代台東第二小学校校長 ②グループワーク

学校での性と生を考える教育とは(自分の実践例・経験例・学校教育に望むものなど)

まとめ

八千代台東第二小学校では、全教員が性教育の勉強をし意思統一の下、性教

育を実践していた。学校での性教育実践は、校長等管理職が性教育を理解していないと非常に困難になる。教育者・行政の中でも性の話を嫌がったり、最近の性教育へのバッシングを非常に恐れたりする傾向がある。行政側から問題になっている性の現状や必要なプログラムの提示があれば実践しやすいのではないだろうか。また、性と生を大切に出来る性教育をするためには子どもの発達段階に応じた、そして、現状にあった内容を教育しなければならない。PNYでは、性教育プログラムと教材を作成したが、これらの内容も踏まえ今後も性と生の教育内容を充実させていきたい。

■連絡先:

代表 渡會(わたらい)睦子

E-mail: mutsuko@mub.biglobe.ne.jp

〒990-2212山形市上柳260(山形県立保健医療大学内) TEL:090-2272-0122

FAX:023(686)6676

セックスワークをめぐる今日的課題

■主催:SWASH

(Sex Work And Sexual Health)

風俗など性的なサービスを提供する仕事をしている人が健康に働くことを目標に活動しています。

■内容:参加者は全員、ファッションヘルスで働くセックスワーカー(風俗嬢・風俗ボーイ)役、ファシリテーター3人が客役という設定のロールプレイ。ロールプレイの内容、条件は、自分の許容範囲の性的サービスの内容で接客すること、指名No.1を目指さなければいけないこと(そのために客を怒らせてはいけないこと)。客役は無理な注文や要求をしてくるから、うまく交渉したり駆け引きしたり、うまくかわしたりすること。目的は、セックスワークの疑似体験を通して、人間関係に支障をきたさずにハイリスクな性行動を回避するのが、いかに難しくまた多様なスキルがあるのか、それを実感し学習してもらうこと。この経験によって、セックスワークの現場にい

ない人でも、普段の性生活で自分を守るために使えそうなコミュニケーションスキルを獲得し実際に取り入れていってもらえたら主催者としては冥利につきる。このワークショップには満員御礼の40名を超える参加者が来場し、3つのグループに分かれ、各グループに客役1名が付き、順番に一人3~5分ずつ悪質な客と悪戦苦闘してもらった。参加者のほとんどの人が「ためになった」「勉強になった」などの感想を持ち、新たなHIV・STD予防の地平に辿りつくことができたようだ。

■連絡先:

〒180-0022

東京都港区海岸3-20-20-1608

電話・FAX 03-5443-1531

E-mail ykaname@mb.infoweb.ne.jp

代表者氏名 要友紀子 水島希



悪質な客と悪戦苦闘し
てもらった。

ボランティアからのメッセージ②

私は昨年に引き続き、今年もAIDS文フォーラムにボランティアとして参加しました。私がこのフォーラムを知ったのは、高校一年生の終わりに学校で行われた、岩室先生のHIV/AIDSについての講演がきっかけでした。この講演での先生の話の面白さと、私達が知らない事実に関心を動かされ、その夏にAIDS文化フォーラムに初参加しました。そして今年も、自分自身の意識の充実と、多くの人と意見を交換したくて参加しました。

昨年参加するまでは、HIV/AIDSに関して教科書に書いてあるような知識しか知りませんでしたが、フォーラムではもっと大切なことを考え、知る機会をくれました。実際にカミングアウトされている方や、医者さんの考えを知り、フォーラムに来ている方と話すことで自分の考えを深めることにも繋がりました。

ボランティアでしたので、講座の方とも仲良くなれて、一緒に講座をやっているという雰囲気や、詳しい質問ができて楽しく講座を終えることができました。フォーラムでは、病気のこと、社会のこと、生と死など多くのことを考えさせられます。身近にあることを忘れてしまいがちだけれど、病気は人を選ばないので「もしも感染して、愛する人をも感染させてしまったら…」と思うと、こんなに悲しい病気はないと思います。感染からの予防ができるのだから、そのことを多くの人に知ってもらいたいし、感染してしまっても回りの人が孤立しないようにサポートする意識が必要だと思います。フォーラムで、意識が変わってくれる人が一人でも増えるようにいつまでも続けたいです。

<品川朋仁>

■参加団体報告&メッセージ

タイを中心とした諸外国の取り組みと 日本の援助の重要性



日本のエイズ流行はまさにこれからが正念場である

■主催:安田直史(国立国際医療センター国際医療協力局)

■内容:日本のエイズ流行はまさにこれからが正念場であるが、多くの外国では数年から10年前に同じことを経験している。それをいかに切り抜けたか、あるいは失敗したらどのような状況になるのかなど、多くの例が見られる。彼らの経験を他山の石とせず、日本のエイズ対策に生かしてもらいたい。当日は、初めに世界のエイズの現状を概説し、まずタイの事例について対策、社会の対応、感染者のおかれた立場などについて現場の様子を紹介した。このなかから日本が学べることについて話し合った。続いてアフリカの事例を紹介し、日本がどんな援助ができるか、援助することの意味は何かについて議論した。

■来場者感想:日本にいて何ができるのか、教育職として考えて行きたいと思いました(40代女性)。感染経路によって対策が違うということを知ってとても興味深かった(20代学生、女性)。日本がすべきこと、というのを改めて考えさせられました。これからのHIV問題に対して世界は、日本は何をすべきか?これが課題だと思います(20代男性)。

■連絡先:安田直史

〒162-8655 東京都新宿区戸山1-20-1
国立国際医療センター国際医療協力局
TEL 03-3202-7181

FAX 03-3205-7860

E-mail:tayasuda@it.imcj.go.jp

こんな教材でエイズを学びましょう

■主催:”人間と性”教育研究協議会かながわサークル

性や性教育について学びたい、指導者として力をつけたい、そんな要望にそって活動しています。

■内容:低年齢の子ども達に性を語る時、絵や写真もいいのですが、「もう少し立体的で、あたたかい感じのする教材を作りたい。」と言う思いから布やスポンジ等を利用して男性器の模型を作りました。数年前に購入したものをモデルにしました。それに合わせて女性器も作りました。また、パネルシアターにもしました。こちらは、エイズの基礎知識も作りました。これらを参加者に提示しながら、「男の子のからだ・女の子のから

だ」「エイズの基礎知識」の事業の流れをお話ししました。参加された方々からは好評でした。しかし、これらの教材はあくまで一つのモデルなので、教える方が使いやすいように改良、工夫していくと良いのではないのでしょうか。

科学的に教えるのはとても大事なことです。が、「低学年にはあたたかさや肌触りの柔らかな教材を使う方がよいのでは?」と言う私たちの思いは参加してくださった方々に伝わったと思います。

■連絡先:山村まゆみ

TEL&FAX 045-954-5492

危機下にある子ども達～バンコクYMCAの取り組み～

■主催:横浜YMCA

タイ・バンコクYMCA財団

バンコクYMCA財団は、社会事業財団として、バンコクのスラムのストリートチルドレンのためのインフォーマル教育、タイ北部(パヤオ県)にある子ども達のためのシェルター(パヤオセンター)として入居する子ども達の自立支援、及びエイズ孤児センター(バンコク近郊のナコンパトム県)の子ども達のケアなど幅広くプロジェクトを行っています。横浜YMCAは、パートナーシップYMCAとして、人的・財的に協力支援を行い、ワークキャンプも実施しています。

■内容:バンコクYMCAは、タイ各地で児童労働・児童売買・児童買春など、多くは貧困によって引き起こされる様々な問題や危機にさらされる子ども達への取り組みを行ってきました。ノイさんが所長を務めるパヤオセンターは、近郊の山岳少数民族の村など周辺地域で、教育を受けられず生活にあえぐ人々(自立の機会を奪われるばかりでなく、麻薬や暴力・犯罪に巻きこまれたり)、そしてその犠牲となってバンコクなど都市部の性産業に売られていく子ども達を保護し、自立していく過程を支えています。子ども達が直面するもう一つの深刻な問題が、HIV/エイズです。タイでも人口比で最も感染率の高

いのが、パヤオ県であり、その予防啓発に関しても力を注いでいます。

パヤオセンターは、HIV/エイズの予防啓発に関して学校や他団体と連携し、教育プログラムを展開すると共にコミュニティセンターとしての働きを行っています。

入居している子ども達の自立は、同センターに寄せられる国内外からの支援によって支えられ、「プロテクトアチャイルド」(子ども達を間守ろう)という奨学金プロジェクトによって、一人ひとりの成長が育まれています。

ノイさんのお話は、子どもが危機にさらされる「負の循環(サイクル)」、背景にある様々な問題、HIV/エイズに関する種類のデータなども交え、私達ができること、なすべきことについて多くの学び、気づきが与えられました。

子ども達にふさわしい世界(豊かに生きられる世界)を、そして一人ひとりの子ども達の人権が守られるよう活動を展開していきたいと願っています。

■連絡先:横浜YMCA

〒231-8458 横浜市中区常盤町1-7

(担当 大江 浩)

Tel:045-662-3721 Fax:045-651-0169

<http://www.yokohamaymca.org>



児童労働・児童売買・児童買春など、多くは貧困によって引き起こされる様々な問題や危機にさらされる子ども達

横浜ダルク ～琉球太鼓～

■主催:横浜ダルク

■内容:琉球太鼓の演奏

横浜ダルク(Drug Addiction Rehabilitation Center)は、1990年、日本で3番目に開設された、薬物依存症者の回復の為の民間施設です。今回AIDS文化フォーラム10周年に沖縄太鼓の演奏で参加させていただいたこと、心から感謝申し上げます。

私ども、横浜ダルクでは、以前HIVと薬物依存症とのふたつのハンディをもった利用者のケースがありましたが、どちらも適切な認識が(本人も含めて)されていないケースが多いと思われま。今後もフォーラム等のメッセージ活動がんばって続けて下さい。



■参加団体報告&メッセージ

PLWHAミーティング (PLWHA限定)



PLWHAが一方向的に支援されるだけの存在ではなく、自立した「生活者」として、当事者から当事者へのメッセージ

■主催: JaNP+

■内容: この1年間の活動報告、PLWHAミーティングの活動と、治療生活ガイド「Positive Vision」の上映とその内容に関する質疑応答。

【報告】

その席上、参加者の中に本来あってはならないような処遇を受け、極めて劣悪な治療環境にあるとの発言あり、参加者一同唖然とする場面が。そのためその方の治療に関する知識は極めて少なく、治療姿勢も極めて消極的。HIV感染症患者であるからとのStigmaを抱え込み、その状況に不安と疑問を持つも病院、医師に言えず、行政の福祉担当者に相談して、当Meetingに参加したとのこと。

事実関係を確認する手段が無いことと、JaNP+の方針からさまざまな社会資源など情報提供に留めたが、その参加者の

様子では、むしろ同じ立場の陽性者が顔を合わせ、それぞれの治療体験を忌憚無く語り合う様子に驚いていたことから、治療への導入が極めて上手く行っていないことは理解できた。

同じ首都圏の病院に通っていても医療格差や情報の格差が大きいことを痛感。治療や陽性者支援など選択の幅が広いといわれている首都圏でも、このような機会をさらに拡充する必要性を感じた。

■連絡先:

〒160-0014

東京都新宿区内藤町1-7ホラトクビル402

TEL 03-5367-8558 FAX 03-5367-8559

Mail info@janplusplus.jp

Web <http://www.janplusplus.jp>

シンポジウム「トリートメント・アドボカシー」 (一般公開)

■主催: JaNP+

■内容:

JaNP+がこの一年の活動を通じ、製作したプログラム「治療と生活のアウトラインを知ろう」陽性告知を受けた人を対象に病院、保健所限定配布するためのビデオソフト「Positive Vision」を特別公開。治療アクセス、治療姿勢の形成などに向けて、このビデオでは複数のJaNP+メンバーが出演し、PLWHAは感染告知の直後の不安から、1人の生活者としての立脚点を見出していった自分たちの経験や試行錯誤を一つのアウトラインとして提示している。

【報告】

参加者の中には「時間が短い割にメッセージが多すぎて消化不良になるのでは？」と言う意見も見られたが、通常は陽性告知を受けた人に持ち帰ってもらい、プライベートな空間でじっくり、繰り返

返しあるいは選択的に見てもらうものであることを説明。

さらにこれは私たちPLWHAが一方向的に支援されるだけの存在ではなく、自立した「生活者」として、当事者から当事者へのメッセージとして Role Model(役割モデル)を提示できる存在にもなり、医療者や非当事者の立場とは異なるところから得ることを確認した。

今回の席上では、PLWHAミーティングの一部と、を行いました。これは本来PLWHA本人が治療と生活のアウトラインを持つために医療機関・HIV陽性者の直接支援を行っているNGOで手渡しされていますが、出演者全員の了解を得て実施した。

後日、タイトルの治療アドボカシーは「治療に関するピア・アドボカシー」あるいは「治療リテラシー(認識)」の言葉が相応しいのではという指摘を受けた。

閉会式 「この10年を振り返って」

■特別ゲスト

ミュージシャン 藤原美穂さん

■内容

1. AIDS文化フォーラムの10年の歩み
2. 藤原美穂さんと岡島運営委員、岩室運営委員長のトーク

藤原さんとHIV/AIDSの出会いは10年前、横浜で開催された第10回国際エイズ会議にさかのぼる。国際会議に向けて様々なイベントが開催される中、FM横浜の深夜枠に「エイズ特番」を受け持ち、様々な角度から啓発活動を行っていた。「どうして藤原さんが」という質問に「他の人が嫌がったから(笑)」とかわしながらも、自らが大病を患った経験、その時の輸血による肝炎等の不安、等からエイズは決して藤原さんにとって他人事ではなかったという。現在は、自分が歌う仕事と、生徒に教える仕事以外に、週2回、日本フォスタープラン協会にて途上国支援、特にアフリカでのAIDS教育には、力を入れている世界的な団体の中で子供の成長記録を担当

。藤原さんは「感染者の母が子供に残す、ストーリーブックは、心を打たれます。私は、単なるパートタイマーですが、年に一度の成長記録のチェックは、私だけがやっているの、知識が充分でない場所では、いかに人が死んで行くかを、毎日、書面で実感していて、実にやるせなくなります。」と語った。

3. 藤原美穂さんライブ

パディシヤのヒット曲「Prayer」と「のらねこ」を熱唱し、聴衆の中には目頭を熱くする人が少なくなかった。

4. AIDS文化フォーラム in 横浜参加者からのビデオメッセージ(制作:CAI)

5. AIDS文化フォーラムの「文化」の由来(10年の歩み参照)

初代 AIDS文化フォーラム in 横浜事務局長 長澤勲さん

6. フロアからの声 (ボランティア、歴代委員長、)
7. 神戸会議の延期SARS問題から2年先に延期になった神戸の国際会議ではあったが、今後もAIDS文化フォーラム in横浜と神戸会議が連携しながら啓発活動を続けていくことを確認した。

■藤原美穂さん略歴

Pas de chat(パディシヤ)

<http://isweb8.infoseek.co.jp/art/pasdec at/>

藤原美穂+中野雅仁=パディシヤというユニットのヴォーカルとして活動する一方で平井堅、今井美樹、をはじめ数多くのアーティストのレコーディング、ステージでコーラスを担当し、数百曲のCM音楽制作に参加し、常にTVからは声が流れている。FMを中心にDJとしてのキャリアも豊富でFM横浜、bayfm、等で深夜帯を中心に番組パーソナリティーとして活躍。



■ 展示

横浜エイズ勉強会



■主催者紹介: AIDSを特別な病気にしたくないという思いで、日頃口にしにくい性やAIDSのことを語り、学び合うワークショップを行っています。

■展示内容:

最近の活動を写真で紹介しました。

①2/27 茅ヶ崎市立中島中学校3年生対象 ②7/12 かながわエイズボランティア夏の育成講座 ③7/29 青葉区保健所・中高生ココロとカラダのセミナー、赤ちゃんふれあい体験

自由にお持ち頂くように印刷物を置きました。不定期刊ミニコミ「みちくさ」16号(印刷最終版)、「みちくさ」バックナン

バー、会の案内(アクティビティー一覧表付き、他に、おすすめの書籍案内、H.I. Voice などの関連プログラムの案内。オリジナル性教育絵はがきを販売しました。

■連絡先:

〒231-8458 横浜市中区常盤町1-7
横浜中央YMCA・NPOセンター内
Tel:045-662-3721
Fax:045-651-0169
<http://www.yokohamaymca.org/volunteer/aidsbenkyo/index.htm>

ライフ・エイズ・プロジェクト

■主催者紹介:HIV感染者・エイズ患者への社会的支援活動を行なう非営利団体(NGO/NPO)として1993年設立。

■展示内容:HIV/AIDSに関する最新情報やHIV感染者・患者のための生活福祉情報などを掲載したLAPニュースレターの無料配布・販売をはじめ、活動内容の展示、『ある日ぼくは「AIDS」と出会った〜シミズくんのサポートグループ設立記』(ポプラ社)や季刊「にじ」(にじ書房)等関

連書籍の販売、各種資料の配付等を行った。またセーフターセックスの普及

啓発のために性行為の書かれたカードをHIV感染のリスクが高いものから低いものへと順に並べかえる「リスク・スケールづくり」の実習を希望者に実施した。

■連絡先:〒100-8691 東京中央郵便局私書箱490号
電話03-5685-9716FAX03-5685-9703
E-mail lap@lap.jp
ホームページ <http://www.lap.jp/>
代表 清水茂徳

セーフターセックスの普及啓発のために性行為の書かれたカードをHIV感染のリスクが高いものから低いものへと順に並べかえる

ATAC in NARA

■主催者紹介:エイズと結核の謎結核の予防と早期発見と完全治癒のためには病気についてみんなで楽しく学習することです。

■展示内容:1)ATAC(ANTI TUBERCULOUSIS ASSOCIATION CONFERENCE)は、結核やエイズやその他感染症をこれ以上広めないために各分野の専門家が集い教育、研究、研修を行うものです。

- 2) 目的に賛同する人は誰でも参加できます。
- 3) 事例のカンファレンスを行う。
- 4) 啓発活動を行う。
- 5) アンケートを取り評価を行う。

■連絡先:代表者氏名 畠山雅行
Email m-hatake@m4.kcn.ne.jp



神奈川県衛生部保健予防課

■主催者紹介:エイズのまん延を防止することや、既に感染されている方々が暮らしやすい社会にすることをめざし、正しい知識の普及や民間活動の支援、エイズ相談・検査の実施、医療体制の整備について取り組んでいます。

■展示内容:「聞かせて 教えて エイズのあれこれ」神奈川県ではユニセフ協会の「HIV/エイズの危機と子どもたち」写真展をメインに実施し、併せて教育用DVDの上映やパンフレット等の配布を行いました。写真展は、HIV/エイズの状況を撮影し続けている写真家 後藤勝氏のカンボジアにおける写真と、ユニセフの取り組みを紹介したものです。HIV/エイズは、サハラ以南のアフリカでの被害や爆発的な広がりが注目を集めていますが、そのかげでアジア各地における拡大も深刻な事態を迎えています。参加者の皆さんには、この写真展を通して、アジアにおけるエイズ問題が、戦争や貧困と密接に関係し、性的搾取、病気への知識不足、麻薬の使用、誤解や

偏見が、多くの子どもと若者を危険と苦痛にさらしていることを理解していただくとともに、エイズについて考え、「自分達にできることはなにか?」「日本の状況は?」と、再度認識を深めていただく機会となったのではないのでしょうか。

■連絡先:

〒231-8588

横浜市中区日本大通り1

神奈川県衛生部保健予防課エイズ・感染症対策班

電話 045-210-1111 内線5116

FAX 045-20-8863

E-mail: saito.9vcu@pref.kanagawa.jp

<http://www.pref.kanagawa.jp/>

代表者 課長 高橋 司

連絡担当者 齋藤麻利



亡くなられた感染者の方のメモリアルキルトの展示

特定非営利活動法人 HIVと人権・情報センター

■主催者紹介:

HIV感染者をはじめあらゆる人々の人権やいのちが大切にされる共生社会をめざして活動。今年で設立15年。

■展示内容:亡くなられた感染者の方のメモリアルキルトの展示をはじめ、団体や活動紹介、パンフレットなどの無料配布、HIVと人権・情報センターの出版物や啓発グッズの紹介、販売などを行った。

【本・グッズの例】

AIDSの状況や人権に関する本、AIDS学習マニュアル、感染者の手記・オリジナルレッドリボン、缶バッジ、バンダナ・キルトハガキ、手作りレッドリボンカード・人権啓発用ビデオ・各種研修マニュアル(サンプル展示のみ)

■連絡先:

〒101-0047 東京都千代田区内神田1-2-2 吉田ビル2F

特定非営利活動法人HIVと人権・情報センター

Tel:03-5259-0622

Fax:03-5259-0643

E-mail: Tokyo@npo-jhc.com

ホームページ:

<http://www.npo-jhc.com>

■展示

財団法人 日本フォスタープラン協会



■主催者紹介:アジア・アフリカ・中南米の45カ国にて、教育、保健、環境、収入増加など総合的な地域開発を行っている。

■展示内容:フォスター・プランの活動パネル並びにHIV/エイズへの取組みの一例としてウガンダの活動記事展示を行った。特にエイズ孤児支援の取組みとして、孤児に対する教育や医療面での支援、感染予防のための啓発教育などに加えて取り組んでいる、HIV/エイズ感染者である親が子どもへの思いを書き残す「メモリーブック」の制作を中心に展示を行った。記事で紹介された「メモリーブック」の中から、10歳と6歳の娘を持つ29歳の女性ベッティのメッセージを紹介する。「親愛なる娘たちへ、あなたたちの未来に望むことを書きます。まず学校をきちんと終え、仕事を持ってください。あなたたち

が言っていたように保健師さんになるのもいいわね。もし結婚するのなら、夫になる人には必ずエイズの血液検査を受けてもらいなさい。結婚前に3回は受けてもらうのよ」フォスター・プラン・ウガンダのシニア保健調整員は話す。「メモリーブックは、親にも子にも大きな意味をもたらします。考えや気持ちを言葉で表すことが精神的な救いになるのです」「死を意識して書き続けることは時に、非常に難しいこともあります。

でもこれは、残された子どもにとって一番大切な宝物になるのです」

■連絡先:

財団法人日本フォスター・プラン協会
〒154-8545 東京都世田谷区三軒茶屋
2-11-22サンタワーズセンタービル11F
TEL:03-5481-6100
Fax:03-5481-6200
<http://www.plan-japan.org>

「結婚するのなら、夫になる人には必ずエイズの血液検査を受けてもらいなさい。結婚前に3回は受けてもらうのよ」

特定非営利活動法人 AIDS & Society 研究会議

■主催者紹介:HIV/エイズについて、広い視野から対策を考え、活動する特定非営利活動法人。

■展示内容:AIDS&Society研究会議の発行するニュースレターを配布するとともに、リソースブック、啓発書籍等を頒布。同ブースでは、JaNP+(ジャンプ・プラス=HIV陽性者のネットワーク)による、

アフリカのHIV陽性者の経済的支援を目指したフェアトレードのグッズ販売も行われた。色鮮やかなの民芸品はアフリカの女性が何日もかけて制作したもので、フォーラム参加者の手に次々に渡っていった。収益の一部はアフリカの国々でエイズ予防啓発活動の資金やHIV陽性者の支援に活かされる。

性を語る会

■主催者紹介:代表・北沢杏子
国内外に会員2,100名。1987年創立。性・薬物・エイズ・環境教育シンポ開催。年間受講生3,000人。機関誌(季刊)発行。年会費2,000円。

■展示内容:国連人口基金および国際協力事業団リプロヘルスIEC事業専門家派遣員としての北沢杏子・長谷川瑞吉に

よるラオス、チュニジアでのエイズ・薬物・STDのワークショップ写真パネル、日本国内の小・中・高校生対象の北沢杏子による同じ内容の授業の写真パネルを展示。紙芝居、教材、書籍他も展示した。

■連絡先:アーニ出版「性を語る会」

〒158-0097
東京都世田谷区用賀3-5-6
Tel:03-3708-7326

アジアの女性と子どもネットワーク

■主催者紹介:アジアの中でも特に社会的弱者である女性と子どもの人権を守り、エンパワメントできる事を目指している。

■展示内容:

2001年11月～行った横浜市内の中学2年生・高校2年生と保護者の性に関する意識調査の報告書「みんなの気になる性のこと」の発行と共に製作したパネルを展示した。子ども自身がどこから性の情報を得ているか、携帯電話などの利用について、今、学校で行われている性教育についてなどを、子どもと保護者・中学生と高校生・男女別にグラフで見やすく表示し、今何が必要とされているかを考えるきっかけとなった。

HIV/AIDSや性感染症についても、性教育の中でどのように扱われているかを実際に授業を受けている子どもたちの

声として伝えることができ、来場された方々と話し合う事ができた。毎年参加させていただき、年毎に関心と意識の高まりを感じる。これからはこれらを如何に子どもたちに広げていくかが課題だと思われる。それらの答えも子どもたちの声を集めた私たちの展示の中にあると考えられ、多くの関係者に見ていただけた事は有意義であった。

■連絡先:

〒231-0015

横浜市中区尾上町3-39尾上町ビル9階
YAAIC内

TEL&FAX:

045-650-5430

E-mail: awc@h6.dion.ne.jp



子ども自身がどこから性の情報を得ているか、携帯電話などの利用について、今、学校で行われている性教育…

JaNP+

■フェアトレード・バザー「Positive Support Positive」

■実施内容と報告

「Positive Vision」にも出演し、先日放送のNHKスペシャルにも出演された佐藤美奈子さんの活動を今回サポート。フォーラム実行委員会ならびにAIDS&Society研究会議のご厚意により出店。

佐藤さんは国際支援の仕事につくHIV陽性者で、その合間に現地で観光品や民芸品を買い上げ、先進国で売り、その売上金をアジア・アフリカ地域のHIV陽性者

の治療費援助を行っている。

今回もザンビアのTシャツ、カンボジアのシルク織テーブルクロス、マサイ族のビーズ細工によるレッドリボンなどが大好評だった。

■連絡先:

〒160-0014

東京都新宿区内藤町1-7ホフトクビル402

TEL 03-5367-8558 FAX 03-5367-8559

Mail info@janppplus.jp

Web <http://www.janppplus.jp>



『AIDS文化フォーラム in 横浜』の歩み

1994年からの10年を振り返って

多様で継続する力、草の根AIDS文化フォーラム in 横浜から学ぶ

ことのはじまり

AIDS文化フォーラム in 横浜のはじまりの次第はこうである。それは今から10年前、“第10回国際エイズ会議”の時のことである。1994年8月、アジアで初めての国際エイズ会議が横浜で開催されたのがきっかけであった。AIDSへの大きな関心と熱いアピールが横浜から世界へ送られたことを憶えている。この国際エイズ会議の開催に併行して市民版草の根AIDS会議が開催しようではないかと話がもちあがった。草の根レベルでAIDSに関するフォーラムがAIDSに関心のあるボランティア、専門家やNGOが集まって実施した。これがAIDS文化フォーラム in 横浜のはじめである。

専門家だけではなく広く一般市民まで巻き込んだフォーラムが狙いだっただけでなく、国際会議の開催中は8万円の参加費を払わなければ会場に入れなかったことも、市民からは距離のある国際会議であった。だからこそ無料で、誰でも参加できる市民の手作りの草の根AIDSフォーラムにしたかった。このフォーラムは当初から、行政や企業からの直接的援助は受けなかった。カネが必要で欲しかったが、支援してもらえなかったということが当時は正直なところであった。このことが後に今日まで継続する力となった一因である。災い転じて福となるのである。したがって、ヒト、カネ、モノ、バジョ、運営もみんな手弁当でささえざるを得ない。フォーラムのために、講師であろうが、北海道から来ようが、すべて自費で参加するのである。無茶といえばそうであるが、こうするしかなかった。このように手弁当、熱血型、市民参加型の草の根AIDS文化フォーラム in 横浜が生まれたのである。また、会場提供など行政が黒子になってフォーラムを支えてくれたこと、ボランティアと行政の協働の新しいあり方のモデルにもなっている。

なぜAIDSフォーラムでないのか！

さて、AIDSフォーラムといわずにAIDS“文化”フォーラムとわざわざ表現しているのか。それには理由がある。AIDSはウィルスによって起こる病気である。病気だから医学や医療、社会福祉の領域だけで語られるだけでいいのか。いや実はHIV感染者・AIDS患者こそ病気と共に生きている人間としていろいろな領域からとらえることが必要ではないか。誰もが人として日常生活ではいろいろな領域に関わって生きているからである。そのことを文化としてとらえ、AIDS文化フォーラムと銘打っているのである。AIDS文化フォーラム in 横浜が今日までその展開するプログラムが多様なのは、こうした文化の中に生活している人の問題として考えた証しともいえる。今では北は北海道から南は九州からの参加者の広がりを見せ、毎年多数の参加者をかぞえている。

継続と多様性のみなもと

エイズ国際会議当時の継承事業といわれたものがほとんど消えてしまったなかで、市民ボランティアの手で、10年も存続しつづけているAIDS文化フォーラム in 横浜は、今まで行政や企業からの直接的援助を期待せず、すべて手作りし手弁当でやるこのスタイルこそ、実は継続の力になったといえる。当初から恵まれた環境にたまたま、草の根のちからで自立した運営が結果としてここまで存続させたのである。

では何故市民ボランティアの力だけで今日まで継続できたのか。それは、AIDSが生み出す社会的問題こそ人間と社会の持つ問題を提示してくれているからであり、AIDSは現代を理解するためのキーワードのひとつであると確信してきたからである。AIDSも人の偏見や差別、社会問題を映し出す鏡だからである。例えば、AIDSとセックスについて考えてみよう。それはHIVというヒトを宿主とする小さな生物(ウィルス)が、人間の営みのなかで極めて個人的な領域である「セックス」に関する行為を軸とする社会関係において、人権問題、差別と偏見、その他の社会問題を通して今日の社会のあり方、人としての生き方を改めて人々に問いかけてくるのである。

AIDS文化フォーラム in 横浜のプログラム領域がそのことを証明してくれる。それらはAIDSと、教育、医療、看護、社会、女性、薬害、文化、人権、企業、ボランティア、セクシャリティ、心、死の問題、国際等の領域を含んでいる。加えて、今日のようにボーダーレス時代はAIDSを日本国内だけの問題として捉えられるだけではすまない現状がある。東南アジアにおける買春問題は日本人には関係ないこととして無視できるだろうか。実は、AIDSを考えることは、グローバルな問題として、AIDSと貧困、AIDSと買春、経済力と医療格差、AIDSと偏見、AIDSと文化ノリア等を考える必要がある。HIV(AIDSウィルス)は本来感染しにくいウィルスであるといわれているが、今でも世界中に広がりを見せているではないか。1998年スイスのジュネーブで開催された第12回エイズ国際会議はAIDSを取り巻く北と南の国の格差問題がテーマであった。

フォーラムの意義とは

このAIDS文化フォーラム in 横浜とその意義について以下のことを留意して実施している。

- ① 市民に開かれたフォーラムによってAIDS問題を浸透される。
 - ② AIDSの啓発について文化的側面からのアプローチを大切にする。
 - ③ HIV/AIDS患者・感染者のカミングアウトの場とその交流支援の機会とする。
 - ④ 特に若い世代へ、AIDSに関する有益となる情報を提供する。
 - ⑤ 性と文化、性教育、性のあり方等を青年たちと考える機会とする。
 - ⑥ 異なった意見や考えを大切にする。
 - ⑦ 閉鎖的な学校教育に風穴をあける。特に性教育に関してオープンになることを期待する。
 - ⑧ 人間として必要な文化の領域からのアプローチを試みる。
 - ⑨ AIDSは日本を超え地球規模の問題としてともに考え問題を分かち合い、共に生きる世界の実現に努める。
- 人間のうちにある差別や偏見をなくし、人権を大切にするよう努める。

継続こそ力である

AIDS文化フォーラム in 横浜に関わりを持ってから、社会の様々な問題がはっきりと見えてきたと感じるのはこの私だけではないだろう。自分の中の偏見や差別を直視し、学ばせてもらう機会になっている。国際会議の時はあれほどまでに高まったが、それ以後はAIDSへの関心がうすれてきている。マスコミもAIDSに関する情報を取り上げることが少なくなってきている。しかしその一方で若い世代の間に深く、静かに、確実にその広がりを見せている現実がある。だからこそAIDSへの関心が次の世代を担う若者へ浸透してくれることを願い、AIDSに地道な取り組みが市民レベルの感覚で、毎年、開催資金集めに苦心しながらも、AIDS文化フォーラム in 横浜を継続していかざるを得ないと自分に言い聞かせつつ実施している。いつ止めてもおかしくないようなまるでいまにも崩れ落ちそうな危ない橋のようである。

写真家の星野道夫さんが「結果が、最初の思惑通りにならなくても、そこで過ごした時間は確実に存在する。そして、最後に意味をもつのは、結果ではなく、過ぎてしまった、かけがえのないその時間である。」と映画ガイヤシンフォニー(地球交響曲第3番)の中で語っていた。

結果がどうであれ、そこに何かをしなければならないというミッションを感じて集まって来る。そしてAIDS文化フォーラムを草の根レベルと力で今年も実施するぞとやっている時こそが、実は後になって意味を与えられ、時に思いがけない結果をあたえてくれるからであろう。横浜の夏・AIDS文化フォーラム in 横浜は多くの人との出会いを与えてくれ、多くの学びをさせてくれ、そして何よりもかけがえのない時間と意味を気づかせてくれる。多様で継続する力は案外そのかけがえのない時間の中に存在するのである。(AIDS文化フォーラム in 横浜 初代事務局長 長沢 勲)

プレ・AIDS文化フォーラム in 横浜 プログラム

最初はこのような取り組みから始まりました

みんなで考える AIDSのあれこれ
— プレ AIDS文化フォーラム —

7月8日(土)～10日(日)の3日間、この横浜で初めて開催される「AIDS文化フォーラム」のプレ・フォーラムを開催し、AIDSの啓発活動を進めようとする。みんなで考えるAIDSのあれこれ、プレ・フォーラムでAIDSに関する様々な話題を扱います。「みんなで考えるAIDSのあれこれ」は、AIDSについてよく知らないと知らないと、あつめてご参加下さい。

【主催】AIDS文化フォーラム組織委員会
【協賛】神奈川県、横浜市

【お申し込みのお問い合わせ先】
AIDS文化フォーラム事務局
〒2-3-1 横浜市中区常盤町1-7
横浜YMCA内
TEL 045(862)3721
FAX 045(851)0160

みんなで考えるAIDSのあれこれ
— プレ AIDS文化フォーラム —

| 月日曜日 | 内 容 | ア・ゲ・ン・タ |
|--------|---|--|
| 5/27 金 | AIDS最新情報 ①日本のAIDSとボランティア団体 ②タイのAIDSの現状 | 南 定百郎 (121-7770707 事務局) |
| 6/4 土 | 異文化社会におけるエイズ対策 ①異文化社会に生きるPWAの現状 ②女性とセーフター・セックス、 若年とエイズ教育 ③PWAの国際的人権保護 | 山田・ヨシ・ベ・ド (47-622-4411 47-622-2177) ザ・ア・ゲ・ン・タ (03-3581-7888) タレント・ブ (114-581-8888) (114-581-8888) |
| 6/10 金 | ウイルスから見たAIDS ①HIVとはどのような働きをするのか? ②ウイルスをくわえながら生きることはいかに? | 玉川 隆徳 (国立衛生研究所・医局) |
| 6/17 土 | PWAとともに ①AIDSの基本的知識 ②HIVに感染したら、どうするか? ③AIDSの予防はどうか? | 広瀬 誠 (広瀬小児科病院・医局) |
| 6/24 金 | セーフター・セックス ①若年層に対するAIDS教育のひとつかり ②セーフター・セックスとは何か? | 岩瀬 誠也 (岩瀬保健所・医局) |
| 7/2 土 | 日本におけるPWAの変遷 ①PWAって何? ②PWAサポートと支援の基 ③PWAへの心づかい | 清水 雅子 (日本赤十字社横浜 所・医局) |
| 7/9 土 | 病気とは何か? ①生命の生活(生命という活動) ②健康と病気は反対概念ではない ③個人と社会 ④社会と病気 | 藤井 正樹 (慶応義塾大学・ 助教授) |

AIDS文化フォーラムのご紹介

【期 間】 8月5日(土)～14日(日)
【会 場】 神奈川県横浜交遊協会協賛にて

今年8月に横浜国際会議場で開催される第1回国際エイズ会議に合わせてエイズに関する民間団体等が中心となり、開催するイベント。このフォーラムは、会場地にも開か

れた場を設け、エイズ問題も会場で考えていくことを目指しています。お問い合わせは「AIDS文化フォーラム」事務局まで。

第1回AIDS文化フォーラム in 横浜 プログラム

AIDS文化フォーラム

日時:1994年8月6日~14日

場所:(財)神奈川県国際交流協会会議室・他
横浜市中区山下町2 産業貿易センター9階

ボランティアが作りあげる市民と海外NGOによるAIDS会議
入場料:無料



主催:AIDS文化フォーラム組織委員会

共催:神奈川県 後援:横浜市 / 川崎市 / 横須賀市

AIDS文化フォーラムの目的

- 1)一般市民によって開かれた会議によってAIDSの問題を地域に浸透させること。
- 2)国際的AIDSボランティア活動家との経験を交流すること。
- 3)AIDSの啓発について文化的側面からの方法を考えること。
- 4)PWAのナマの声を伝えること。
- 5)高校生、大学生のAIDSボランティア活動の経験を交流すること。
- 6)AIDSボランティア活動の向上のために有益となる情報を提供する。

ジェネラル

| 日時 | 会場 | プログラムの表示 | 内容 | 講師・担当名 |
|------------|-----|-------------|--|---------|
| 6(土)18:30 | 会議室 | オープニングパーティー | ①本会議参加者を招待するレセプション ②トリー・カウチ・トーク(全席) 2時開演 | 事務局 |
| 8(月)18:30 | 会議室 | 全体会議① | ①開会式 ②本会議の目的と議題(19:30~20:30)の発表 会場へ来て下さる方に向けて何となく話をする。 | 組織委員会 |
| 10(水)18:30 | 会議室 | オープニングパーティー | ①本会議参加のNGO(海外・国内)を招待。 ②懇話会(招待) | |
| 11(木)18:30 | 会議室 | 日比谷ホール | ＊神奈川県・横浜市(財)神奈川県国際交流協会、 AIDS文化フォーラム、市民団体とマスメディア の共同での交流を目的とする。 | アラン・ドロー |
| 14(日)18:30 | 会議室 | 全体会議② | ①PWAのAIDSボランティアによるレセプション ②PWAのAIDSボランティアによるレセプション | 事務局 |

PWA (HIV感染後AIDS発症を避けるための生活習慣について)

| 日時 | 会場 | プログラムの表示 | 内容 | 講師・担当名 |
|------------|------|-------------|--|------------------------|
| 8(月)18:00 | 会議室 | PWA/HIVポスター | ①PWAの入門・解説 ②アジアの文化 | ハイロベド博士 大石純彦 宮内隆 |
| 9(火)18:00 | A研修室 | 心のワークショップ① | ①心を開くワークショップ(2時間)の時間 ②PWAの心を開くワークショップ(2時間)の時間 | |
| 9(火)18:30 | A研修室 | 心のワークショップ② | ①HIV予防の基礎知識と実用 ②HIV予防の基礎知識と実用 | HIV看護グループ |
| 10(水)18:00 | A研修室 | 看護 | ①HIV予防の基礎知識と実用 ②HIV予防の基礎知識と実用 | |
| 11(木)18:00 | 会議室 | セミナー① | ①PWAの生活習慣とAIDS発症の予防 ②PWAの生活習慣とAIDS発症の予防 | 土島真理子 藤本てる子 松岡健 |
| 12(金)18:00 | 会議室 | セミナー② | ①PWAの生活習慣とAIDS発症の予防 ②PWAの生活習慣とAIDS発症の予防 | |



医学

| 日時 | 会場 | プログラムの表示 | 内容 | 講師・担当名 |
|------------|------|----------|--|-----------------------|
| 6(土)18:00 | B研修室 | 伝染病学① | ①HIVポスターの発表(事例報告)その他 ②AIDSの診断と治療(最新)の発表 ③AIDSの診断と治療(最新)の発表 | 高木唯典(札幌大) 10 大矢あかね |
| 7(日)18:00 | 会議室 | 伝染病学② | ①伝染病学②の発表(事例報告)その他 ②伝染病学②の発表(事例報告)その他 | 武田洋 |
| 7(日)18:30 | 会議室 | 伝染病学③ | ①伝染病学③の発表(事例報告)その他 ②伝染病学③の発表(事例報告)その他 | 川崎浩徳 矢野中 |
| 11(木)18:00 | A研修室 | HIV | ①HIVの診断と治療(最新)の発表 ②HIVの診断と治療(最新)の発表 | 川崎浩徳 |
| 12(金)18:00 | A研修室 | 伝染病学④ | ①伝染病学④の発表(事例報告)その他 ②伝染病学④の発表(事例報告)その他 | 柳井正義 |

同性愛

| 日時 | 会場 | プログラムの表示 | 内容 | 講師・担当名 |
|------------|------|---------------|--|----------------------------------|
| 7(日)18:00 | A研修室 | レズビアン・ゲイ・スタディ | ①ゲイ・レズビアンに対する差別意識と差別意識 | 片山友信 |
| 7(日)18:30 | A研修室 | 同性愛 | ①AIDS・HIVの予防とゲイ・レズビアン ②AIDS・HIVの予防とゲイ・レズビアン ③AIDS・HIVの予防とゲイ・レズビアン | 藤岡孝 松本純子 甲川真澄 シバチンダ・カーン |
| 7(日)18:30 | A研修室 | コミュニティ・ワーク | ①ゲイ・コミュニティに対するセーフティー・セッ クス・キャンペーンの発表 ②ゲイ・コミュニティに対するセーフティー・セッ クス・キャンペーンの発表 | 菅原智恵 大沢純 |
| 13(土)18:30 | A研修室 | レズビアンとAIDS | ①ゲイ・レズビアンに対する差別意識と差別意識 ②ゲイ・レズビアンに対する差別意識と差別意識 | 伊礼聖子 |

社会問題

| 日時 | 会場 | プログラムの表示 | 内容 | 講師・担当名 |
|------------|------|----------|--|--|
| 6(土)18:00 | A研修室 | 差別とAIDS | ①差別とAIDSの関係を論じる ②差別とAIDSの関係を論じる | 差別とAIDSグループ |
| 10(水)18:00 | A研修室 | 女性とAIDS | ①女性とAIDSの関係を論じる ②女性とAIDSの関係を論じる | 吉水純子 鈴木千夜子 吉水純子 菅原智恵・吉水純子 ILGA, WHOの両定国際 ゲイ・レズビアン |
| 10(水)18:30 | 会議室 | AIDSと法律 | ①AIDSと法律の関係を論じる ②AIDSと法律の関係を論じる | 野田由・田中聡 中川直徳・南定四郎 中川直徳 |
| 10(水)18:30 | 会議室 | AIDSと人権 | ①AIDSと人権の関係を論じる ②AIDSと人権の関係を論じる | |
| 10(水)18:30 | 会議室 | アソシエーション | ①AIDSとアソシエーションの関係を論じる ②AIDSとアソシエーションの関係を論じる | アソシエーション |

若者

| 日時 | 会場 | プログラムの表示 | 内容 | 講師・担当名 |
|------------|------|----------|--|-------------------------------|
| 10(水)18:00 | 会議室 | 参加者条件 | ①参加者条件 ②参加者条件 | LAP 清水英徳 |
| 8(日)18:00 | A研修室 | キャンプ | ①中学生の活動報告と高校生への活動報告 ②大学生の活動報告 | SAY NETWORK 野田由・清田大 定純子 |
| 10(水)18:30 | A研修室 | 模擬授業 | ①中学生の活動報告と高校生への活動報告 ②大学生の活動報告 | |
| 13(土)18:00 | 会議室 | 若者上コンドーム | ①若者の性行動と正しいコンドームの着用方法 ②若者の性行動と正しいコンドームの着用方法 | 菅原智恵 鈴木美 早川直徳 |
| 14(日)18:00 | 会議室 | B・A・P | ①B・A・Pによるキャンペーン活動 ②B・A・Pによるキャンペーン活動 | |

ボランティア

| 日時 | 会場 | プログラムの表示 | 内容 | 講師・担当名 |
|------------|------|-----------|--|---------------------------------------|
| 6(土)18:00 | A研修室 | E・A・C① | ①E・A・C①の発表 ②E・A・C①の発表 | 事務局 |
| 7(日)18:00 | 会議室 | 電話相談① | ①電話相談の基礎知識と電話相談の傾向 ②電話相談の基礎知識と電話相談の傾向 | 高田真子 志保紀代美 上原真子 鈴木千夜子 矢野中 |
| 7(日)18:30 | 会議室 | ボランティア① | ①ボランティアの基礎知識とボランティアの傾向 ②ボランティアの基礎知識とボランティアの傾向 | 大塚由紀子 横田のり子 |
| 8(日)18:00 | 会議室 | ボランティア② | ①ボランティアの基礎知識とボランティアの傾向 ②ボランティアの基礎知識とボランティアの傾向 | |
| 8(日)18:30 | A研修室 | 企業のボランティア | ①企業のボランティアの発表 ②企業のボランティアの発表 | |
| 12(金)18:00 | 会議室 | 電話相談② | ①電話相談の基礎知識と電話相談の傾向 ②電話相談の基礎知識と電話相談の傾向 | |
| 14(日)18:00 | B研修室 | E・A・C② | ①E・A・C②の発表 ②E・A・C②の発表 | 事務局 |
| 14(日)18:30 | 会議室 | 地域情報センター | ①地域情報センターの発表 ②地域情報センターの発表 | |

海外交流

| 日時 | 会場 | プログラムの表示 | 内容 | 講師・担当名 |
|------------|------|-----------|--------------------------------|---|
| 6(土)18:00 | B研修室 | 海外交流 | ①海外交流の発表 ②海外交流の発表 | ジョーン・ワトソン 横田由紀子 Rolf Engstrom |
| 7(日)18:00 | A研修室 | 海外交流 | ①海外交流の発表 ②海外交流の発表 | 小川大樹 山田英子 EMPOWER 岡田尚志 アソシエーション |
| 11(木)18:00 | 会議室 | 相互支援① | ①相互支援の発表 ②相互支援の発表 | |
| 11(木)18:30 | 会議室 | 相互支援② | ①相互支援の発表 ②相互支援の発表 | |
| 13(土)18:00 | 会議室 | オランダのAIDS | ①オランダのAIDSの発表 ②オランダのAIDSの発表 | ロバ・ハールマン |

ビジュアル

| 日時 | 会場 | プログラムの表示 | 内容 | 講師・担当名 |
|------------|------|-----------|--------------------------------|----------------|
| 13(土)18:00 | A研修室 | AIDSビジュアル | ①AIDSビジュアルの発表 ②AIDSビジュアルの発表 | 山田由紀子 横田由紀子 |
| 14(日)18:00 | A研修室 | 人権 | ①人権の発表 ②人権の発表 | 山田由紀子 横田由紀子 |

会場外プログラム

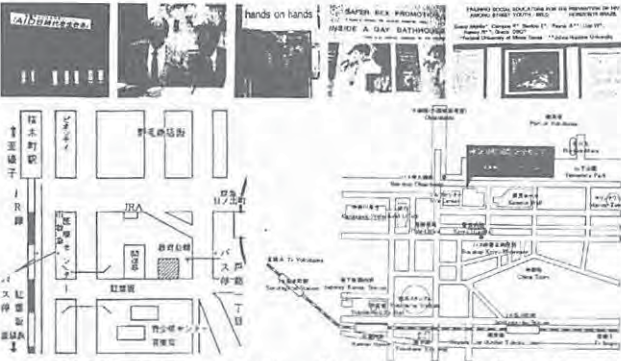
| 日時 | 会場 | 種別 | 内容 | 担当者 |
|-------------------|-----------|---------|------------------------|------------|
| 6日 13:00-15:00 | 臨海公園 教育会館 | パフォーマンス | 「私を癒すまで」(PWAとダンスをめぐって) | 小貫大輔 |
| 8日(月) 18:00-19:45 | 臨海公園 教育会館 | 講演公演 | 「私を癒すまで」(PWAとダンスをめぐって) | 山田忠孝・劇団新人会 |
| 9日(火) 18:00-19:45 | 臨海公園 教育会館 | 講演公演 | 「私を癒すまで」(PWAとダンスをめぐって) | 山田忠孝・劇団新人会 |
| 8-14 | 横浜商店街 | パフォーマンス | 「私を癒すまで」(PWAとダンスをめぐって) | 加藤孝・LWA |

AIDS文化フォーラム組織委員会

| | | | | | |
|-----------|-----------|------------|--------------|------------|-------------|
| 議長 文部(副) | カリック横浜副都庁 | 山本 謙次(副) | 横浜市中区立区民センター | 前田 尚秀(事務局) | 横浜生活協同組合連合会 |
| 副議長 三浦(副) | かながわのしび財団 | 藤田 功(事務局) | 横浜YWCA | | |
| 委員 藤田 尚秀 | 横浜いのちの電話 | 吉村 昭二(事務局) | 横浜YWCA | | |

AIDS文化フォーラム実行委員会

| | | | | | |
|--------|-------------------|-------|----------------|--------|------------------|
| 田中 雄 | (財)神奈川県国際文化交流協会 | 広瀬 誠 | 広瀬小児科医療・医局 | 加藤 孝 | LSG/レドア実行委員会 |
| 小出 啓雄 | 神奈川県生活協同組合連合会 | 市岡 美奈 | 個人(青年海外協力隊経験者) | 中川 眞治 | 弁護士 |
| 庄下 悠雄 | (財)横浜市海外文化交流協会 | 宮本 時也 | 野野保健センター | 田崎 英明 | ビジュアル・エイズ東京 |
| 長沢 剛 | 横浜YMCA | 大森 雅子 | 女性の教育センター | 小田川 信也 | WRAJ |
| 藤田 尚秀 | カリック横浜副都庁 | 金子 昭 | 文壇社社会福祉研究会 | 小林 豊 | WRAJ |
| 森田 英郎 | カリック横浜副都庁 | 鈴木 実 | (財)ナイスハート基金 | 吉永 隆子 | 川崎市立市民センター |
| 藤崎 旬代 | 横浜YWCA | 吉水 幸 | 日本YMCA関東 | 沢田 貴志 | SHARE |
| 志道 紀代美 | 横浜いのちの電話 | 片山 尚彦 | 横浜新人会 | 津波 栄 | SHARE |
| 土屋 昭子 | 横浜いのちの電話 | 藤井 正哉 | 安立義塾大学助教授 | 津波 栄 | SHARE |
| 田中 雄 | 横浜青年会連合会 | 北沢 淳子 | アーティスト | 前川 高代 | JVC横浜川 |
| 渡田 大 | 個人(SAY NETWORK) | 栗 定太郎 | エイズアクション | 大和田 順子 | イオンフロント |
| 坪井 真由 | 個人(SAY NETWORK) | 中山 晋作 | エイズアクション | 栗田 隆彦 | 個人(博覧会観覧ボランティア) |
| 久住 尚 | 日本ネットワークス会議 | 豊原 智雄 | 魁(クイ)レズビアン会 | 栗田 隆彦 | 個人(博覧会観覧ボランティア) |
| 鈴木 健一 | 日本ネットワークス会議 | 野崎 真治 | 魁(クイ)レズビアン会 | 高橋 隆 | ライヴ・ワイズ・エイズ(LWA) |
| 小貫 大輔 | 5&6ビル・ダンス・パフォーマンス | 木石 敏彦 | 横浜YMCA/横浜YWCA | 飯田 伸一 | 弁護士 |
| 清辺 英彦 | カラオケの会 | 松浦 尚 | AIDSケア・プロジェクト | 津次 政幸 | HEVC入場・情報センター |
| 植野 啓子 | かながわ女のスペース・みずら | 鈴木 進彦 | 外国人向け支援プロジェクト | 高島 真理子 | HVC入場・情報センター |



AIDS文化フォーラム
1994年6月15日発行
編集人：藤田 尚秀
発行所：AIDS文化フォーラム事務局
〒231 横浜市中区栗原1-7 横浜YWCA WCCPI
電話：(045)662-3721
FAX：(045)657-0169

AIDS Culture Forum
August 1994.

| 日 | 時間 | 内容 |
|---------|-------------|--|
| 6(SAT) | 13:00-15:00 | [PD] Natural medicine 13:30-17:30 [Pr] Aromatherapy [Pr] Personal computer network. [Pr] Buddy Age Project 17:30-19:45 [Pa] Opening party. [Pr] AIDS education by deafness. |
| 11(TUE) | 10:00-12:00 | [Pr] HIV 13:00-15:00 [Pr] Home care. 15:30-17:30 [Ge] Plenary meeting 18:00-19:45 [PD] AIDS in Thailand and sex industry. |
| 7(SAN) | 10:00-12:00 | [PD] Natural medicine 13:00-15:00 [PD] Homosexual issues. [PD] Natural medicine [PD] Hotlines 15:30-17:30 [PD] Community working. [Pr] AIDS education. [PD] Volunteer training 18:00-19:45 |
| 12(FRI) | 10:00-12:00 | [Pr] AIDS Isopice. 13:00-15:00 [PD] Natural medicine 15:30-17:30 [Pr] What is disease? 17:30-19:45 [Pr] PWA (shelter). [Pr] Community Party. |
| 8(MON) | 10:00-12:00 | [Pr] Students and AIDS 13:00-15:00 [Pr] AIDS education by midwives. [PD] Volunteer training 15:30-17:30 [Ge] Plenary meeting 18:00-19:45 [Pr] Volunteer work by merchandise Co. [PD] PWA |
| 13(SAT) | 10:00-12:00 | [PD] Women and AIDS. 13:00-15:00 [Pr] Visual AIDS. [Pr] Condomes + youth. 15:30-17:30 [PD] Lesbian and AIDS. [PD] AIDS in Thailand's slums 18:00-19:45 [En] One woman play [Pr] AIDS in the Netherlands. |
| 9(TUE) | 10:00-12:00 | [PD] Relationship by young peoples for cross cultural relationship youth. 13:00-15:00 [Pr] Mental health [PD] Hotlines 15:30-17:30 [Pr] Mental health [PD] AIDS science. [PD] AIDS and Community health work. 18:00-19:45 [Pr] Mental health [PD] AIDS policy. |
| 14(SUN) | 10:00-12:00 | 13:00-15:00 [Pr] Buddy Age Project 15:30-17:30 [PD] Creating a Community Center. 18:00-19:45 [Ge] Plenary meeting 17:30-19:45 [Pr] Final party. |
| 10(WED) | 10:00-12:00 | [Pr] Knowledge check. 13:00-15:00 [PD] Nursing for AIDS. [PD] AIDS and the work place. 15:30-17:30 [Pr] Teaching for middle school. [PD] AIDS and Human Rights. 18:00-19:45 [Pr] Community work. [PD] Activism. [Pr] AIDS education in Spanish. |

Pr - Presentation, PD - Panel Discussion, Pa - Party, Ge - General Meeting, En - Entertainment.
Information(045)662-3721
Place Kanagawa International Association
Conference room:
9F Sangyo Bunko Center
2 Yamashita-cho Naka-Ku Yokohama

AIDS文化フォーラム・プログラム

1994年8月

プログラムの日程は変更の場合があります。

| 日 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 日 |
|-----------------|-----------------|--------------------------|------------------------------------|-----------------------------------|--|-------------------------|---|---------------------------------|--|-------|
| 時間・会場 | 土 | 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | 日 | 時間・会場 |
| am10 ~ pm12 | (A) (B) (K) (R) | 伝統医学② プライマリケアとAIDS | ヤング | 海外交流 | 女性とAIDS 感染する条件 | 女性とAIDS | AIDSホスピス | 女性とAIDS AIDSビジュアル | (A) am10 ~ pm12 (K) (R) | |
| pm12 ~ pm1 | | | | | | | | | pm12 ~ pm1 | |
| pm1 ~ pm3 | (A) (B) (K) (R) | EAC① 伝統医学① | 同性愛 伝統医学③ 電話相談① | 助産婦からみたAIDS ボランティア② ターゲット教育 | 心のケア① 電話相談② | HIV AIDSと職場 ホームケア | 伝統医学④ | AIDSビジュアル 若者コンドーム | BAP EAC② 地域情報センター (A) pm1 ~ pm3 (B) (K) (R) | |
| pm3 ~ pm3:30 | | | | | | | | | pm3 ~ pm3:30 | |
| pm3:30 ~ pm5:30 | (A) (B) (K) (R) | アロマセラピー パソコンネット | コミュニティワーク AIDSの知識 ボランティア① | 心身のケア② サイエンス AIDSと地域保健 | 模擬授業 AIDSと人権 | HIV 全体会議② | 病気とは何か? 相互支援② | レズビアンとAIDS 相互支援② 全体会議③ | (A) pm3:30 ~ pm5:30 (B) (K) (R) | |
| pm5:30 ~ pm6:00 | | | | | | | | | pm5:30 ~ pm6:00 | |
| pm6:00 ~ pm7:45 | (A) (B) (K) (R) | 感覚障害者&AIDS オープニングパーティ | 企業のボランティア PWAのボランティア ターゲット教育 | 心のケア③ AIDSポリシー | コミュニティサポート アクティビズム AIDS Education in Spanish | 相互支援① 日仏イベント | コミュニティパーティ PWA(システム) 一人芝居 コミュニティパーティ | 一人芝居 オランダのAIDS フィッシャーパーティ | (A) pm6:00 ~ pm7:45 (B) (K) (R) | |
| | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | |

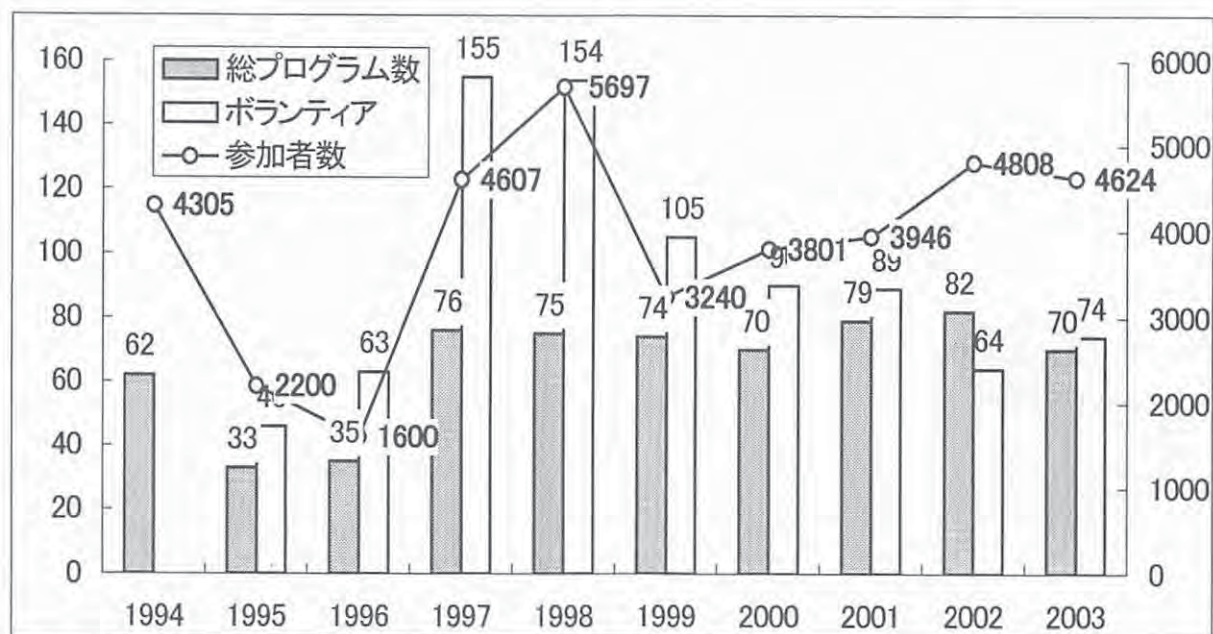
■記号解説 (A)-A研修室 (B)-B研修室 (K)-会議室 (R)-ラウンジ
■会場外プログラム 6日 13:00-15:00 臨海公園 13:30-17:30 教育会館 「私を癒すまで」劇団新人会 8日(月) 18:00-19:45 臨海公園 「私を癒すまで」劇団新人会 9日(火) 18:00-19:45 臨海公園 「私を癒すまで」劇団新人会 TEL: 0422(46)5461 (1) 2,300 / 中野高校1,300

AIDS文化フォーラムin横浜

■10年の歩み(開催の概要と経緯)

| 年 | 94年 | 95年 | 96年 | 97年 | 98年 | 99年 | 2000年 | 2001年 | 2002年 | 2003年 | |
|----------------------|----------------------------------|-----------------------------|--------------------|---------------------------|-----------------------------|-------------|----------------|----------------------------|----------------|-------------------|-----------------|
| 回 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | |
| 会場 | 神奈川県国際交流協会 | | | かながわ県民センター | | | | | | | |
| 開催日数 | 8日間 | | 3日間 | | | | | | | | |
| 開催テーマ | 市民と海外NGOによるAIDS会議 | ともに生きる | ともに生きるから連帯へ | 未来へのつどい | エンパワメント自立と共働に向 | いまを生きる | いま、一人ひとりができること | いま、一人ひとりができること | つながるつながる | AIDS これまでの10年これから | |
| プログラム数 | 会場内58 | 31 | 34 | 72 | 76 | 70 | 64 | 72 | 81 | 74 | |
| 入場者数 | 4,305 | 2,200 | 1,600 | 4,607 | 5,694 | 3,240 | 3,801 | 3,946 | 4,808 | 4,624 | |
| 話題 | | 母親が語る薬害エイズ | 性風俗とAIDS | 映画:秋桜 | TV神様もう少しだけ | 複数の作家の作品展 | 女性プログラム | バリアについて考える | 有森裕子さん、国際、神戸会議 | 10年の振り返り、早坂暁氏 | |
| | PLWHAの主体的な参加 | | | | | | | | | | |
| 特徴 | 感染経路を問わず、エイズとそれを取りまく状況を、多様に考えていく | | | | | | | | | | |
| 市民版AIDS会議として | 参加者の減少傾向 | 参加者の増加傾向 | | | 減少 | 安定 | 安定 | 増加 | 安定 | | |
| | 国際AIDS会議との連携 | 国際会議をきっかけとした市民グループの参加 | | | 様々な市民活動グループの参加 | | | 全国からの参加 | | | |
| | 参加団体 | 東京の団体が中心 | 新しい団体の参加(実験的プログラム) | | | 呼び掛けも行う | | テーマに沿ったプログラムを実現するために意図的な参加 | | 特に国際NGOへの参加呼びかけ | 若者をキーワードに参加呼びかけ |
| | 来場者 | 会議参加者と一般市民 | 地元の市民中心 | | 全国からの参加 | | 一般参加者の減少 | | 再び増加 | 教育関係者の増加 | |
| 広報 | ポスターパンフレット | | | プログラム表を全国の保健所、エイズ教育指定校に配布 | | | ホームページのスタート | | メールマガジン | | |
| マスコミ | 取り上げ大 | 減少傾向 | | | 夏の定番記事として取り上げ | | 社会的関心の薄れ | | | | |
| 社会背景 | アジアで初の国際会議 | 薬害エイズの報道増加 | 薬害エイズの和解 | カクテル療法 | 障害者認定 | ピル解禁、感染症予防法 | 女性用コンドーム、薬害乱用も | ハンセン病 | SARS | エイズ国際会議の延期 | |
| 組織委員 | エイズに取り組む民間団体で構成し、フォーラムの責任を負う | | | | | | | | | | |
| 運営委員 | 約50名 | 約15名 | 約17名 | 約19名 | 約20名 | 約20名 | 約20名 | 約20名 | 15名 | 約15名 | |
| 運営委員の構成 | プログラム参加団体 | 医療関係とHIV/AIDSに係わるボランティア団体中心 | | | HIV/AIDS関係活動以外のボランティア経験者も参加 | | | | | | |
| 運営委員会開催状況 | 3回 | 4回 | | | 約15回(年間通しての開催) 小委員会も開催 | | | | | | |
| ボランティア | 会場運営に市民ボランティアを公募 | | | | | | | | | | |
| | かながわエイズボランティア講座(横浜YMCAで実施) | | | | | | | | | | |
| | かわさきエイズボランティア講座(川崎市事業) | | | | | | | | | | |
| | 夏休みの学生ボランティア増加 | | | | | 中学生ボランティア増加 | | | | | |
| ボランティア担当実行チーフボランティア制 | | | | | | | | | | | |
| 事務局 | 横浜YMCA | | | | | | | | | | |
| 課題 | 継続 | 社会的関心の低下・入場者減 | | ボランティアコーディネート | | 内容と対象の明確化 | | マンネリ化 | マンネリ打破の改革 | 10年の総括 | |

AIDS文化フォーラム in 横浜プログラム数と参加者数の推移



国際会議の年

第1回は神奈川県国際交流協会を主会場として、9日間、62のプログラムを実施し、参加者は4,305名を数えた。社会の中で偏見と差別のみ語られていたAIDSという病気に対し、このフォーラムはボランティアの働きによる新しい市民レベルの社会へのアプローチとして当時高い評価を得ました。

1995年

第2回は「ここでの成果を一過性のものに終わらせることなく、継続して欲しい」という全国のAIDSに関わるNGOや団体からの強い要望があり、神奈川県国際交流協会の協力を得て3日間開催しました。

1996年

第3回は、ともに生きるから連帯へというテーマでした。この年、ボランティア育成講座の修了者が「かながわレッドリボンクラブ」を結成し、横浜YMCA会館内にかながわレッドリボンプラザがスタートしました。AIDSに対する社会的関心は落ちこんでいたこともあり、参加者の減少は否めませんでした。

1997年

第4回のフォーラムは会場をかながわ県民センターに移し、特筆すべきことは「PWAのネットワークを考える」というフォーラムで、HIVに感染している5人の方がプレゼンターとなり、ネットワークを組むために必要な課題と問題について議論しました。

1998年

第5回が開催された年はHIV/AIDSの治療薬が増え、HIV感染は慢性病になったと言われはじまりました。テレビで放映された「神様、もう少しだけ」の深田恭子さんらがドラマやエイズについてのトークを行いました。

1999年

第6回はゆったりとした会場構成と時間設定をしましたが、世間のエイズに対する関心が低下し、入場者は半減する一方で全国からの専門職の参加が増えました。

2000年

第7回は恋人とのセックスでHIVに感染した北山翔子さんやタレントの岡田美里さんのトーク、女性用コンドーム、ピル、と女性をテーマとしたプログラムが多く組まれました。

2001年

第8回はパラリンピック金メダリストの成田真由美さんとHIVに感染している桜屋伝衛門さんのトークを通して「障害」という視点でHIV/AIDSの問題を改めて考える機会となりました。

2002年

第9回で「国際」をテーマとしたプログラムが増え、自らカンボジアなどでボランティア活動をしている有森裕子さんの話は多くのボランティアが勇気付けられる内容となりました。

2003年

第10回は早坂暁さんがHIV/AIDSを題材に番組を制作するとしたら、と言う設定を参加者と共に一緒に考えました。またこの10年間の振り返りと若者をターゲットにしたプログラムが多くなりました。

■「AIDS文化フォーラムin横浜」の考え方

◎概要

AIDS文化フォーラムは、HIV/AIDSに関わる市民による市民のための手づくりフォーラムとして、参加する一人ひとりが、「資源・知恵・出来る事・手法」を持ち寄って回を重ねてきています。様々な立場で参加する個人・団体が、お互いが目指していることを実現するために、それぞれが運営主体として、「情報修得・交換の場」「交流を広げ・深める場」「活動発表と意見交換の場」を一緒に創り上げています。

※お互いの資源を持ち寄ることで『思い』を実現する

◎目的

エンパワーメントすること。HIV/AIDSの持つ医学・社会・文化・国際的課題を、一人ひとりが自らのものとして、多様な価値観と文化を認め合いながら集うことで、新たな力（「気づき」と「やる気」）を得て、それぞれが地域、世界にアプローチしていきます。

バリアフリーの社会をつくること。だれでもがHIV感染する可能性を持つことを前提に、生きることを考え、HIV/AIDSを通した学びを入口として、住みやすい環境を作るアクションを起こします。

※エンパワーメント／多様な価値観と文化を認め集い力を得る

※バリアフリー／HIV/AIDSからの学びを活かした環境を作る

◎経過

このAIDS文化フォーラムは、1994年8月に横浜で開催された第10回国際エイズ会議に連動して始まった市民版のエイズ会議として、多くの評価を得ました。その後も、毎年夏の恒例イベントとして、横浜で継続して開催されてきました。HIV/AIDSの問題を単に医療問題としてだけとらえるのではなく、幅広い市民の視点で、世界の問題、人権の問題、そして自らの問題として、様々な側面からアプローチすることで、より多くの人たちの理解を促進するとともに、医療・教育・ボランティアの現場で専門的に関わってきた人たちにも、新たな「気づき」と「やる気」の生まれる場を提供してきました。

※継続の場が新たな「気づき」と「やる気」を生む

◎構成

HIV/AIDSに取り組む地域の民間団体が構成する「組織委員会」がこのフォーラムの責任を担います。HIV/AIDSに関わる市民（※1）で構成される「運営委員会」がフォーラム全般の企画・運営を受け持ちます。横浜YMCAが「事務局」として調整・連絡機能を担います。「行政（県・市）」は協働の立場で、会場提供、広報などを行います。そして個々の参加プログラムは「参加団体」が、そのプログラムについての企画・広報・実施の全てを責任持って行います。またこのフォーラムの会場運営の全般は、幅広い世代の「ボランティア」が支えます。

こうして用意した場に、全国から数千人の「参加者」を迎え、参加者はこの場で得た情報・スキル・ネットワークを全国各地に持ち帰ることになります。

※ さまざまな立場が協働して、このフォーラムを支えます

◎経費

フォーラムの全体運営の経費は、毎年、単年度予算として、団体からの助成金や個人的な寄付金に支えられています。各参加団体には、自分達で入場無料プログラムを独立採算で実施してもらいます。（参加団体は自分達の資金で講師謝礼やスタッフ交通費などを賄います。フォーラムから各団体への資金援助はありませんが、助成金情報などを提供しています。反面、全体運営に必要な経費を参加費・会場費などの名目で徴集はしていません。）

※全体運営も参加プログラムも、それぞれが独立採算で実施しています

（※1）市民

ここでの市民とは、学生・社会人も、医療・教育・福祉の専門家も、行政のエイズ対策担当者も、NGO・NPOのスタッフも、感染している人やその家族も、自らの意思で、一人ひとりがボランティアとして対等に、このフォーラムに参画し、支え合うことを表しています。

※ボランティアとして対等に参画し支え合う幅広い市民のフォーラムです。



「思い」をもちよって、わかりあって、パワーをもらって、ネットワークをつくって、「思い」を実現する...それがフォーラム。

■フォーラムを支えた人たち

■組織委員会

神奈川県内でエイズ問題に取り組む、民間団体の代表者で構成されます。毎年、5月頃から10月にかけて結成されます。「AIDS文化フォーラムin横浜」を主催し、その社会的責任を負います。

メンバー(03年度):

- ◇横浜いのちの電話 榎原高尋
- ◇横浜YWCA 関むつみ
- ◇横浜商工会議所 川本譲次(代理 古田正一)
- ◇横浜青年会議所 田口英明
- ◇横浜YMCA 山根誠之(委員長)

■運営委員会

フォーラムを実質的に運営するボランティアの集まりです。医師、保健師、教師、共催・後援(行政)の担当者、ボランティアグループからの参加者、フォーラム大好きでずっと関わりを持っている方...etc いろんな人がいます。

- ◇運営委員長 岩室紳也
- ◇副委員長 矢部尚美
- 山口ちづこ 高村文子 岡島龍彦 吉永陽子 齋藤麻利 金井多恵
- 渡辺亨宏 渡辺詢子 長沢勲 千代木ひかる
- 高橋亮(事務局) 大江浩(事務局)

■事務局:

◇横浜YMCA <http://www.yokohamaymca.org>
組織委員会、運営委員会の円滑な運営を助け、年度を越えての継続的な開催を補佐します。
10年前にフォーラムを立ち上げる際、呼び掛け人となった横浜YMCAが、継続して事務局を務めています。◇担当:高橋亮・大江浩

■ボランティア

毎年、60~100名のボランティアが活躍しています。小学生から高齢者まで、そして全国から、多くのボランティアが集まってくれました。

青木智和 秋山さつき 安達春佳 飯野なつみ 池原梨紗 伊原光明 岩室享子
今出賢紀 内田和代 内河敦 遠藤祐里花 岡村駿 岡村嶺 岡村寛
岡村多美子 奥山梨沙 荻野麻里子 小澤香江 小野杏菜 加藤景子
岸原香織 岸宗邦明 城戸妙子 小島明子 古寺晴 小林由佳 小林彩乃 齋藤安澄
佐藤賢太郎 品川朋仁 篠崎弘 清水諒介 白久留美 鈴木園子 鈴木美帆 関根俊
紀 高坂雄次 高橋健太郎 田中信哉 千葉泰久
丁子谷菜央 渡久地直美 鴫崎伶奈 内藤真理子 中村理津 中澤光枝
名和美由紀 西尾エミ 林大貴 畠山美恵 原口昌浩 日比野浩 福島祐一 福島友香
古川英司 松崎薫 丸山礼子 三浦美喜子 水尾真規 宮崎実果 宮崎薫子 三輪恵
利奈 村上まみ 望月早枝子 山口あずさ 山田亜美
吉川るい子 吉田真理枝 吉田美緒 吉永さやか 吉永千尋 渡辺弥生



一人ひとりができることを持ち寄ったらフォーラムができました。

AIDS文化フォーラム 運営委員会 発行

〒231-8458
横浜市中区常盤町1-7
横浜YMCA 内
フォーラム事務局

電話 045-662-3721
FAX 045-651-0169

<http://www.yokohamaymca.org/AIDS/>

2004年8月！
また、
お会いしましょう!!



AIDS文化フォーラムの考え方(要約版)

AIDS文化フォーラムは、お互いの資源を持ち寄ることで『思い』を実現する場です。

1. 目的／エンパワーメントすること(多様な価値観と文化を認め集い力を得ます。)／バリアフリーな環境をつくること(HIV/AIDSからの学びを活かします。)
2. 経過／国際会議以降の継続が新たな「気づき」と「やる気」を生んできました。
3. 構成／さまざまな立場が協働して、このフォーラムを支えます。
4. 経費／全体運営も参加プログラムも、それぞれが独立採算で実施しています。
5. 市民／ボランティアとして対等に参画し支え合う幅広い市民のフォーラムです。

■2004年予告!!

「第11回 AIDS文化フォーラムin横浜」

期日：2004年8月6日(金)～8日(日)

場所：かながわ県民センター(横浜駅西口徒歩5分)

- ◇横浜駅西口の会場にぶらっと来てみてください。入場無料、誰でもOK。
- ◇「ボランティアやってみようかな」という方は、事務局の横浜YMCAに問い合わせしてね。
- ◇エイズ/HIV啓発活動などを行っている皆さん。皆さんの活動を広げてみませんか？
- ◇PWHAsの皆さん、一緒に考えましょう。
- ◇学校の先生、ぜひ来てください。時には生徒と一緒に学んでみましょう。
- ◇お医者さん、保健師さん、薬や医学の最前線レポートもあります。
- ◇人権問題、セクシュアリティ、社会問題などに興味のある方もどうぞ。「文化」の2文字はエイズを通してあらゆる人間活動に関わっていきたいという願いです。